

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1088

「済生会交差点」

リハビリは
ここまで来た!



2

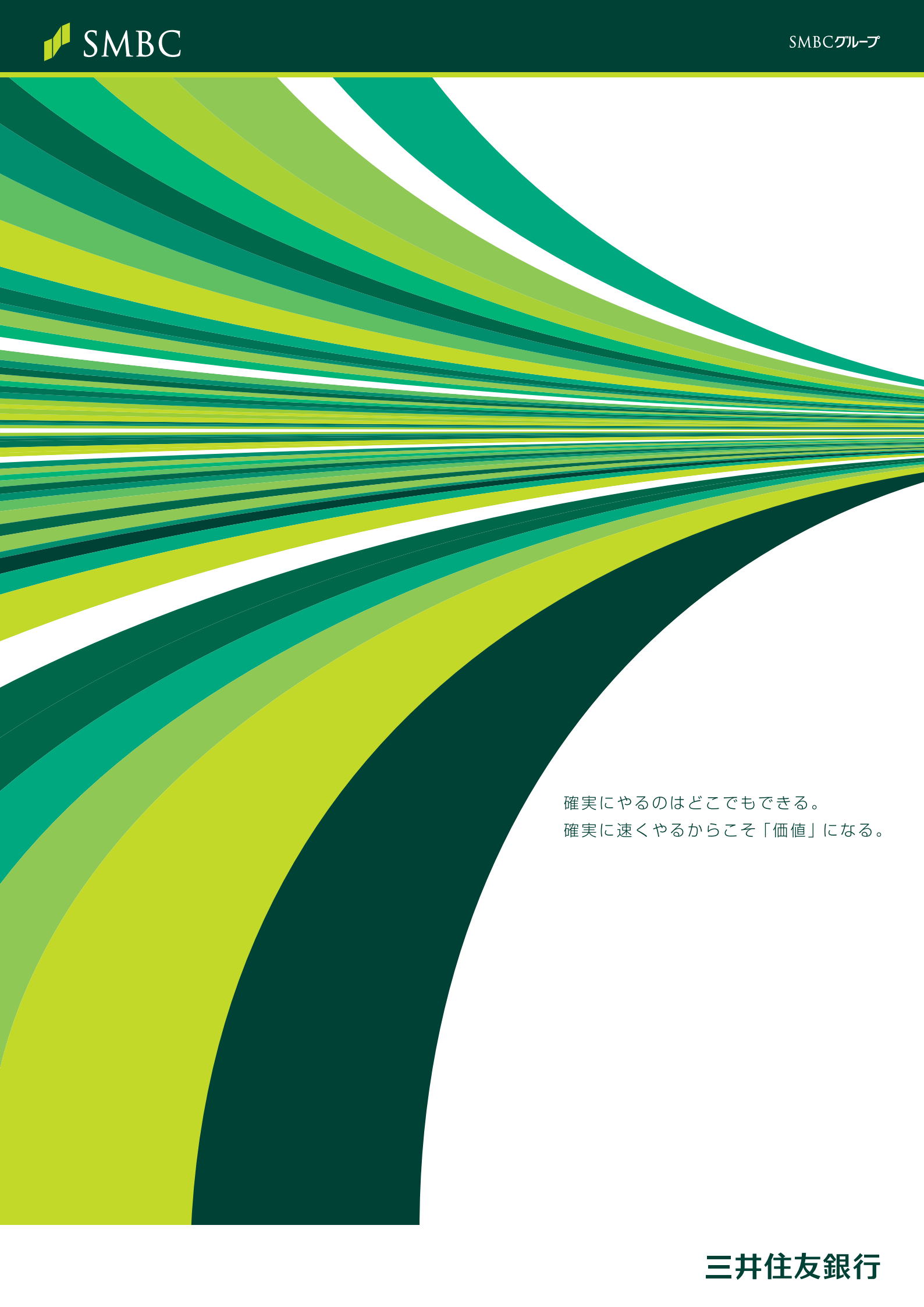
February 2020

社会福祉法人

恩賜
財団

済生会

<https://www.saiseikai.or.jp>



確実にやるのはどこでもできる。
確実に速くやるからこそ「価値」になる。

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂

Shigeru Sumitani

若年からの健康管理

還

暦を越えたところからだろうか。知り合いが集まると、会話の中身が、健康に係ることが多くなった。年を追うごとに多くなり、すべてを占めることさえある。

「〇〇のサプリメントは高かったけれど、血糖値が下がった」「大腸がんになったが、早期発見で助かった」など体験談が

延々と披露される。

最初のころは私の関心外で、閉口した。

若いころ読んだフランスの哲学者アランの「幸福論」では、常に明るく積極的に考え、行動する重要性が説かれていた。「顔色の悪い人にそれを指摘するだけでは、相手の病気を悪化させるだけだ」と述べていたが、その

とおりと思った。病気について考えると、本当に病気になるてしまおうと避けてきた。

しかし、年齢を重ねるにつれ、若いころのツケもあるだろうか、体の随所に不調が出ることは自然の摂理だ。こんな時どこかで聞いた経験談が役に立つ。「あの人もそうだった」と慰められる。若いころからもっと注意しておけば良かったと悔やむのは、私だけだろうか。

☆

☆

昭和51年12月の福田赳夫内閣発足時、厚生大臣（当時）に渡辺美智雄が就任した。渡辺大臣は、就任して直ちに、健康増進政策を抜本的に強化し、医療費抑制策を取るべきだと指示した。以前交通戦争と呼ばれ、多かった交通事故死は、大きく減少していた。道路の整備や法律による罰則強化もあったが、「飲んだら乗るな」などのキャンペーンが大々的に実施され、交通安全意識が国民に浸透したからだ。厚生省（当時）も「健康のために深酒は止めよう」といった意識を定着させる国民運動を始めるべきだとミッチー節で話した。

当時私は、この問題を所管する部署で実務の中心を担う課長補佐として勤務していた。他の課員とともに深夜まで検討を重ねた。住民の身近なところで健康づくりを行なう市町村保健センターの創設、国保保健婦（当時国保特別会計で保健師を抱えていた）を住民全体の保健指導に当たる市町村保健婦（現在の保健師）への移管など政策パッケージを作った。

厚生省の本格的な健康づくり政策の始まりだが、一定の効果はあった。

☆

☆

健康づくりは、若いころから正しい知識を持つて始めることが肝心だ。しかし世間には、「〇〇でがんは治る」という類の誤った情報が乱れ飛ぶ。薬にもすがりたい患者の気持ちを手玉に取る悪徳業者が絶えない。医学の進歩は、目覚ましい。10年前の医学知識が修正されることも稀でない。国や自治体、医療機関、学会などは、常に正しい情報を分かりやすく国民に伝えることが必要だ。済生会もホームページや「済生会の力」などで積極的な提供に努力中だ。



済生

SAISEI

FEBRUARY, 2020

C O N T E N T S

NEWSな済生人 公的医療機関初のJCI病院が2度目の認証更新

熊本病院

院長

副院長／TQM部長

中尾浩一さん＋原武義和さん

06

済生会交差点

【栄養でがん患者を支える】「楽しく、おいしい」食事でがんに負けない体づくりをサポート／【リハビリはここまで来た!】最新機器を駆使。楽しみながらリハビリに取り組める／【帰省時の内服薬管理】家族用と看護師用のツール

10

で在宅での誤薬防止を工夫／【入所生活をもっと楽しく!】マンネリ打破! レクリエーションの改革で満足度向上

巻頭コラム 済生会の不易流行論

若年からの健康管理 理事長 炭谷 茂

03

2月のたよりが聞こえる ― 海を渡ったキツネ表紙のことば 久保田真由美

05

国際交流

16

無低 & なでしこプラン

16

なでしこナースのストーリー

19

この人 葵わかな

20

口福につぼん 吉井省一

22

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ

24

TOPICS

26

載々、大雑報

60

題字協力：石飛博光

アートディレクション：
OVO INTERNATIONAL

2月のたよりが聞こえる

海を渡ったキツネ

40

年ほど前、「キタキツネ物語」という映画があった。一頭の雄のキタキツネがオホーツクの流水に乗ってやって来る。現地の雌キツ

ネと出会い、雪原で恋を育み、一家を構え、子育てに奔走する。やがて子別れの時を迎え、子どもたちを追いついて彼は姿を消す。独り立ちした子どもたちは

様々な試練の中、一頭を残して命を落とす。そして生き残った息子

は父親と再会。成長した息子に思い出深い地を託し、父親はまた流水に乗っていずこかへ去っていく。そんな物語だった。

日本初の動物ドキュメンタリー映画で、キタキツネのかわいさが人気を呼び、ヒットした。2013年にはリニューアル版も上映された。

キツネが流水に乗ってやって来る。本当にそんなことがあるのかな。

キタキツネは、サハリン、千島、北海道にすむアカギツネの一種。本土ギツネより一回り大きい。北海道には大正時代、千

島列島中部の島からノネズミ駆除と毛皮を目的に導入された。

映画とはちよつと違うが、やはり海を渡ったキツネだったのだ。

この時の人間たちのもくろみはうまくいかず、キツネとともに北海道に「嫌われ者」も入ってきた。寄生虫の「エキノコックス」。キタキツ

ネを媒介して人間に感染する。肝臓、肺、まれに脳にも入り込む。治療は外科的手術しかないのだが、発症までの潜伏期間が長く、気がついたときにはすでに手遅れになっていることもある。

この「エキノコックス症」の原因がキタキツネだとわかると今度は患者扱い。駆除に乗り出す人間もいた。実際、この病にかかる人が増えていたのは事実だが、キタキツネが悪いわけではない。

今では予防法もわかって病人は以前より減り、キツネたちがむやみに命を絶たれることはなくなった。それどころか、依然、結構な人気者なのは、映画に負うところが大きい。

流水に立つ凜としたキタキツネの姿は、それほど美しかった。(S)

表紙のことば

かわいらしさに化かされて

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

大昔から人間の近くにいたキツネ。いたずら好きで賢い性質から神様のお使いになったり、物語の中では気取り屋だったり悪賢かったり、当てが外れて悔しがったりしています。お友達の誰かに似

ていると感じることはないですか？ 人に化けたキツネはとても魅力的なようです。あの人はキツネかもしれない。そんなふとした想像から物語は生まれるのかな。

公的医療機関初のJCI病院が2度目の認証更新



熊本病院 院長

副院長/TQM部長

中尾浩一
さん

原武義和
さん

熊本病院・外来がん治療センターのライトコートの前で。左は聞き手の西園さん

NEWSな済生人 Interview

熊本病院は2013年11月、公的医療機関で初めて、医療の質と安全において国際基準を満たすことを示す「JCI認証」(Joint Commission International)を取得。19年11月に2度目の認証更新を果たしました。患者さんにとっては、同院で受ける治療が安全面を中心に国際的にも高い水準にあることが確認できます。改めて「医療の質」の重要性について、熊本病院院長の中尾浩一さんと、プロジェクトの中心を担ったTQM部長の原武義和さんに伺いました。(鹿児島病院 済生記者 西園桃子)

西園 2度目のJCI認証更新、おめでとうございます。ここに至るまで、医療の質をどのように向上させてきたのでしょうか。
中尾 副島秀久前院長が、クリニカルパスや医療安全など「医療の質」に関わる担当者を集め、2002年にTQM (Total Quality Management) センターを立ち上げたのが出発点です。13年に最初のJCI認定を受けた際、同センターが、質や安全を管理し意見する監査部署の役割を果たしました。そして、JCIの規定に沿って、経営執行機関と並列で独立した内部統制機関として組織図に位置づけました。その後、15年にTQM部に改編。初代部長を私が務め、院長に就任した17年に原武副院長にバトンタッチしました。TQM部は医療安全管理室2人(医師、看護師)・感染管理室4人(医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師)・品質管理室4人(事務3、臨床工学

ミスを責めるのではなく 最後にミスを防いだ職員を 褒める

技士」の3室で医療の質を管理しています。

西園 TQM部設置のメリットは？

原武 「医療安全」「感染」「品質」をTQM部で一元的に管理できます。例えば、前述の3室のメンバーが毎日集まり、死亡症例やICU入室患者の確認、感染情報や品質改善活動といった院内外のトピックスなどを一緒にチェックします。院内横断的で重要な委員会を複数所管しており、3室は委員会資料の準備から、決定事項を実行する管理運営機能も担っています。

西園 部のメンバーは専従ですか？

原武 専従もありますが、多くはそれぞれの職掌を兼務しており、基本的には数年単位



「失敗しないための評価」 にこそ認証の価値がある

で交代しています。そうしないと取り組みが組織に根づかず、属人化してしまいます。

西園 JCI認証に対する患者さんの反応は？

中尾 海外からの医療ツーリズムの患者が多い大都市ではないので特段の反響は感じません。求職者の中には「JCI病院で働きたい」という人もいますが……。JCI認証は「特別な機能を持つ病院のプラス評価」ではなく、医療がマイナスに振れるのを防ぐ、「失敗しないための評価」だと思っています。

西園 一見、地味にも感じますが……

中尾 日本人には、なじまないかもしれませんが



TQM部スタッフ

せんが、海外では重要度がとても高い。例えば、宇宙飛行士の船外活動や遊園地のジェットコースターの管理などは、絶対に失敗してはいけない。医療も同様で、リスクを回避するための仕組みを徹底的に築き上げるという考え方がJCIの根幹です。医療過誤の中には、JCI病院なら起こり得なかった事例も少なくありません。

西園 具体的には？

中尾 例えば、患者の取り違いです。先日、解剖するご遺体を取り違えたというニュースがありました。JCIでは、入院患者は



病院一丸となって認証更新を果たした

病院を出るときまでリストバンドを外してはいけないというルールがあります。死者であっても、患者を取り違えることはあり得ません。ほかにも医師の資格確認は医師免許の提出に加えて、厚生労働省にも問い合わせます。「間違わないためにどうするか」米国らしい実用主義ですが、私たちも取り入れています。

西園 しかし患者さんには、「神の手を持つスーパードクター」のほうに魅力的に映るのでは？

中尾 確かに「患者さんを間違えません」と言うより、「必ず私が治します！」と言う医師のほうに注目されるでしょう。しかし、誰がやってもできることは確実にやらなければいけない。しかもそれを組織で実行する

——。院内で集団感染が発生すれば、救急も含めて患者さんの受け入れをストップせざるを得ません。医療安全・感染・品質の管理作業は、どこに敵がいるのかわからないゲリラ戦のようなもの。日頃からリスク回避を徹底することが大切です。

「間違わないためにどうするか」

西園 日常の診療でJCI認証はどのように役立っていますか？

中尾 患者さんに



「お名前と生年月日を言っただけですか？」と問いかけ、必ずご自身に答えてもらいます。外来から検査に行っても同じ確認を繰り返します。面倒に感じますが、医療安全は患者さんの協力も必要で



す。苦情を受けたら「私たちは患者さんを間違えたくありません！」と説明するよう全職員に徹底しています。

西園 顔なじみの再診患者さんにも？

中尾 週3回、通院してくる透析患者さんにも答えてもらいます。

「そんなことをしたら病院に来なくなる」と心配する声もありましたが、慣れた方はこちらが聞く前に名乗ってくれるほどです。

西園 基本を徹底することが大事ですね。

中尾 当院の失敗事例です。病棟から内視鏡室に案内する際「Aさん」と呼び、返事をした方を連れてきてしまいました。受付の職員も「Aさんですね？」と連れてきた職員に聞いただけで本人確認をせず入室。麻酔を終えたところ

で担当看護師が名前と生年月日を答えてもらっていないことに気づいて聞いたのです。すると、その患者さんは予定表に

ない別の名前を言ったので、背筋が凍り付いた——という

ヒヤリハット報告で



外来ロビー

かりしていたら、取り組みが定着しません。職員にとっても煩わしいルールなので、気持ちよく実践してもらうための工夫です。

西園 その事例も共有するのですか？

中尾 はい。「グッドキャッチ」と名づけ、院内ニュースで情報発信しています。「JCIは「性弱説」だと思っています。誰だって疲れていればミスもするし、機械のように働けるわけでもない……だから最後にボールをすくった職員を褒めて、萎縮せずに働いてほしいと願っています。

西園 ほかに？

原武 TQM部では月に一度、各診療科のカンファレンスに参加して「ロードショー」と名づけた取り組みを実施しています。例えばカテーテル関連

感染や手術部位感染の発生率などを全国のベンチマークと比較してフィードバックします。患者の不利益になることはしつかりモニターしていることを意識づけ、緊張感を持って診療してもらうこと

【取材を終えて】

熊本病院は、いち早くTQMという考えを組織の中に取り入れ、地道に続けてきた細やかな活動がその礎となっていたことを取材を通して知ることができました。中尾院長が話していた「失敗しない価値」「リ

が狙いです。JCIの公用語は英語ではなく「数字」と言われており、データで検証した結果を提示しています。

西園 目に見える形で伝えるのですね。

中尾 医師はデータに敏感だし、数字で示さないと納得しません。過去にはデータに基づき手術を停止させた医師もいました。データがすべてではありませんが、評価するには基本的なデータが必要です。

西園 お話を聞いて、取り入れるのは簡単ではないと感じました。

中尾 そんなことはありません。「どうしたら患者さんに危険が及ぶことを避けられるのか」をみんなで考えて、小さなことからでも始めることです。TQM部のような



内部統制機関の設置は難しくて、その役割を担う職員を制度として位置づけて周知し、院長が責任を負う形で全面的にバックアップする——できればこういう仕組みをつくって進めるのが望ましいと思います。

スクヘッジ」といった言葉……命を守り暮らしを支える現場だからこそ、「当たり前」のことを当たり前にできる「環境を病院が一体となって作っていくことが大切だと改めて感じました。

(西園桃子)

す。

西園 想像するだけで、ぞっとします。

中尾 本人確認のルールをなぜ守らなかったのか、と批判の声が噴出しましたが、私は「いや、これは最後に聞いて大事に至ることを防いだ人を褒めましょう」と言いました。JCIの審査官が教えてくれたのですが、こぼれ落ちそうなボールを最後にすくい上げたことにフォーカスして安全文化をつくりましょう、と。頭ごなしに批判は

済生会

交差点

SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。



体重を減らさないことが 重要

がん患者さんの多くに体重減

行なっています。季節を舌で感じ、目で楽しめるイベント食などにも力を入れています。ほかにも、がん罹患数増加などの状況を受け、19年6月にがん患者さん向けミニレクチャー「がん栄養」を開催、がんに関心を持っていただくことをポイントに講演しました。

少が認められます。要因はがん告知による心理的ストレス、がん性疼痛などの身体的ストレス、消化管の狭窄や閉塞、化学療法副作用などさまざま。特に、化学療法開始前から体重が減少している患者さんには、体重減少の回避が重要です。当院では、無理なく食べられる量で必要栄養が確保できる「ハーフ食」を用意。主食・副食の量が半分、不足分の栄養素を栄養補助食品で補います。主食は、ごはん・

栄養で がん患者を支える

〈栃木〉
宇都宮病院
調理課長
岡本憲一

「楽しく、おいしい」食事で がんを負けない体づくりを サポート

当院（がん診療連携拠点病院）が行なうがん患者さんの栄養管理の一つに、緩和ケアチームでの関わりがあります。私は、201

5年にがん病態栄養専門管理栄養士を取得、緩和ケアチーム専任で働いています。チームは、緩和ケア科・外科・精神科の医師、薬剤師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、MS

W、管理栄養士と多職種で構成、病棟多職種カンファレンスで、担当看護師が特に関わりが必要と指摘した患者さんを選定し、チームは電子カルテで情報を共有して週1回の定期回診を実施しています。

私の役割は、回診前に患者さんの栄養状態や喫食率（提供した食事をどの程度食べたか）、アレルギーの有無、必要栄養量等を調べ、事前カンファレンスで栄養に関する提案をすること。

患者さんは「食事」とれない「死」を連想するよう、終末期患者さんは「食への執着」を感じます。特に終末期の栄養や食は、患者さんの生きる希望や願いにもつながる重要な要素です。そのため患者さんと話し、「うなぎが食べたい」「果物なら食べられそう」など嗜好の変化や食への希望を丁寧に聴き取り、ニーズに合わせた代替食や補助食品の提案も



緩和ケアチーム

リハビリは
ここまで来た!

東神奈川
リハビリテーション
病院

同院は2018年2月に回復
期リハビリテーション専門病院
として開院。『未来のリハビリ

テーションに貢献できる先進的
なリハビリテーションに取り組
むこと』をモットーに、最先端

最新機器を駆使。 楽しみながら リハビリに取り組める



江端広樹院長



山本和子技師長



ハロウィンのイベント食

おにぎり・おかゆ・パン・うどん・冷やしうどん等、食べたいものを選べます。副食は消化が良い食品を中心に、ベーコンなどの多脂性食品を避けて提供しています。

がん化学療法に伴う消化器毒性・悪心・嘔吐・下痢・口内炎・味覚異常などの副作用は、それぞれの症状に合わせた対応が大切。少量ずつ数回に分けて食べたり、口当たりのよいゼリーや麺類を勧めたり、栄養科に常備している食品から患者さんの好みに合わせて提案したりしています。患者さんからは「おいしく食べられました」と好評です。

食事の基本は栄養のバランスですが、食べていただけなければ意味がありません。今後とも義務や強制でなく「楽しく、お

岡本調理課長ががん患者会で「がんと栄養」をレクチャー



いしく」食べて
いただくことを一番に、工夫し

ながらがん患者さんへの食の提
案に努めます。



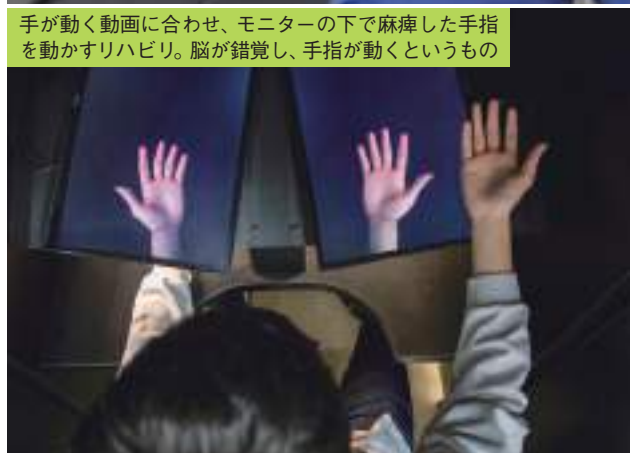
回診前に緩和ケアチームの多職種でミーティング



天井に設置された複数のカメラで姿勢や歩き方の特徴を分析する

技術を用いたりハビリ診療や、大学等との共同研究に取り組み点が特長です。

江端広樹院長は「最新機器を



手が動く動画に合わせ、モニターの下で麻痺した手指を動かすリハビリ。脳が錯覚し、手指が動くというもの

用いて、従来のリハビリでは難しかった観点で定量評価を行ったり、リハビリのデータを一元管理・分析したりすることで、患者さん一人ひとりにあった治療を行なうことが目的。そのために、多くの最新リハビリ機器を導入しています」と話します。

例えば認知機能にアプローチする機器「Myro」(写真)。モニター前で窓ガラスを拭くように手を動かすと、曇った画像の下からイラストが現れ達成率が表示されます。動作が直感的でわかり

やすく、中には身を乗り出して取り組む患者さんも。山本和子技師長によると「患者さんは、前回の数値と比較することで楽しく取り組める。定量的なフィードバックがすぐ得られ、医療者も成果や課題が見えやすい」とのこと。

OTの川上新さんも「最新機器を使ったりハビリは『時間が経つのが早い』と患者さんに好評。従来のリハビリに加え最新機器でのリハビリというバリエーションが増えたことで、患者さんにとって良い刺激になっているようです」と効果を実感しています。県外の

窓拭きのように腕を動かすと曇った画像の下から絵が現われ、拭けた割合を達成率として表示する



上肢のリハビリ。患者に合わせて治療部位や難易度を選択することができ、ゲーム感覚で行なえる



手で押す力を具体的な数値で確認する



患者さんも増え、中には遠方から受診する方も。機器の中には、日本初上陸で翻訳の説明書がな

「薬説明カード」を用いて、家族に説明



帰省をお見送り

帰省時の 内服薬管理

〈三重〉
明和病院なでしこ
准看護師
辻 文

家族用と看護師用のツールで 在宅での誤薬防止を工夫

いものもありましたが、山本技師長は「海外から開発者を招き、議論を重ねながら使い方を学べた」と振り返っています。

大学の臨床研究にも協力

慶應義塾大学リハビリテーション医学教室と連携し、最新リ

ハビリ機器の評価や開発への協力も実施。江端院長は「回復期の臨床データの提供や、ボランティアの協力を得て実用化前の機器を試すなど、未来のリハビリに貢献するべくさまざまな協力体制を取っています。研究には多くの病院のデータが必要で、

当院は開院準備段階から連携を始めました」と話していました。19年12月には大手企業がリハビリのデータベース開発に加わるなど、着実に歩みを進めています。「患者さんのデータを積み重ねていくことで今後の予測を立てやすくなり、個々の患

者さんの目標までの道筋を多職種間でより共有しやすく、より達成しやすくなると考えています」と、江端院長は期待を寄せています。

(メディカル・リーフ

櫛田宏美)

当施設は重症心身障害児者の入所施設で、幼児から70代までの40人が長期入所しています。その中で家族のサポートがある入所者さんは、定期的に自宅に帰省しています。

しかし近年、入所者も家族も高齢化が進み、医療依存度の変化や介護負担の増大により、帰省者数の減少や帰省日数の短縮が目立つようになってきました。帰省中の誤薬も増えており、看護師から

「このままでは帰省が困難になる」という意見が出て、内服薬管理について家族への介入が必要であると痛感。また看護師間で帰省準備が統一されておらず、水薬等の渡し忘れなどの問題もありました。



そこで、内服薬管理における課題を抽出。「薬説明カード」や「帰省時チェックリスト」を活用した管理を試みました。

介護者の大半は高齢者 内服薬管理を意識づけ

課題の洗い出しは、毎年帰省する入所者さん12人の家族を対象にアンケートを実施。内服薬の名前や効能を理解している家族は半数で、主たる介護者の67%が60歳以上（うち70歳以上が33%）でした。

そこで帰省時に家族と看護師が薬と一緒に確認する「薬説明カード」を作成。毎週帰省する入所者さんの家族からは「慣れているから不要」との指摘も出ましたが、間違いない内服薬管理の大切さを伝えました。他の家族からは「わかりやすい」「自宅でもカードと薬を照らし合わせて確認している」という意見も。カードの有効活用で内服薬管理の意識が高まり、誤薬

SAISEI | 2020 FEBRUARY 14



ために、レクリエーション改革に取り組みました。

大画面の映画、散歩に 居酒屋喫茶や便秘体操

①大画面での映画鑑賞

これまで、食堂のテレビだった映画鑑賞をプロジェクターと大型スクリーンに変更。座席が遠くでも画面が見やすくなり、迫力のある映像で映画を楽しめる環境に、入所者さんから喜びの声が聞かれるようになりました。

②居酒屋喫茶 オープン！

「もってコーヒーやお酒が飲みたい！」との要望を受け、食堂を居酒屋風に飾り付け、ジュースやアルコールが飲める居酒屋喫茶を企画。半年に一度開店し、提灯や民謡・祭りの音楽などに包まれ、お酒を楽しめる空間です。「久しぶりに飲めてうれしい」「ずっと続けてほしい」など、参加者は笑顔で話され大好評です。

③好天時の散歩

当施設はJR大阪駅まで徒歩10分ほどの中津病院のビル内併設施設。天気の良い日には職員と一緒に施設周辺や、大阪駅直結の大型複合施設・グランフロント大阪の庭園までお散歩に出かけるようにしました。外気に触れ季節の変化を感じてもらうことで、気分転換につながっています。

④便秘体操

毎日のおやつ前に、食堂で「青い山脈」の曲に合わせて便秘体操を実施。アンケートで「体操がしたい」との回答をもとに便秘解消のために開始、身体を動かす機会が増えました。

新たな刺激と楽しみで 日常生活が活性化

今回、入所者さんの目線に立って意見を聞き、希望するメニューを取り入れたことで満足度がアップ。自発的にレクリエーションに参加するようになりました。居酒屋喫茶は、入所者さん同士・家族同士の交流の場にもなり、コミュニケーションが増えました。特に職員満足度の高まり



は、入所者さんの喜ぶ姿や声が大きく影響しています。楽しいレクリエーションを実現できた

ことが、職員の意識を変化させました。今後も創意工夫を続けていきます。





中国で胃がんの ライブ治療

京都府病院



当院の消化器内科・富江晃医師と五條学外来看護係長が、12月6～9日に中国の福建省で開催された「第6回福州国際消化器内視鏡フォーラム」に招聘されました。早期胃がんの患者さんに施行する

ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）のライブデモンストレーションを行なうためです。

言葉の違いやスピーチしながらの施術

など、普段とは異なる状況下でしたが、患者さんも早期合併症を生

〈神奈川〉横浜市東部病院

ベトナム・ダナンがん病院から 6年目の研修受け入れ

11月11日～12月4日の約4週間、ベトナム・ダナンがん病院の放射線診断科のチャン・チ・ミ・タム医師が当院で研修しました。同病院からの研修受け入れ事業は6年目になります。

画像診断全般の研修をする中、ベトナムでの業務で比重の高い

ずることなく治療はスムーズに終了。ライブデモンストレーションは大盛況で無事成功を収めました。

治療介助を行なった五條看護係長は「普段、当たり前存在する環境のありがたさを実感させられた。医療技術職同士や患者さんと医療者が密なコミュニケーションを図ることで信頼関

超音波検査・生検検査に特に興味を持って研鑽を積みました。本人が乳腺領域を専門としているため、乳腺外科

医の生検や手術の様子を見学。また腹腔鏡下の結腸がん手術や、手術支援ロボットによる前立腺摘出術も見て回りました。

本国とのさまざまな違いに驚くとともに、

親切に指導する先生方に感謝を

係が成り立ち、業務が遂行できるのだと改めて気づいた」と報告しました。

（企画広報室長 松岡志穂）



振り袖姿のタム先生と当院職員たち

述べ「日本では医療者全員が患者さんに優しく接している点は特に見習いたい」と話していました。

（放射線診断科 佐藤浩三）

〈栃木〉宇都宮病院

ドキュメンタリー映画で、知的障害者の暮らしを知る

12月15日、当院「みやのわホール」で、自閉症と重度の知的障害者の地域での暮らしを追っ

たドキュメンタリー映画「道草」の上映会と、障害を持つ人の演奏会を開催しました。

知的障害者の暮らしの場は広がっているとされますが、重度者の多くはまだまだ施設や病院、

親元にいるのが実情です。この映画は「たった一人の世界では自分は見えない。道草をしながら二人で歩く散歩は、この世界とつながり、相手の瞳に自分を

一時生活支援事業施設の 5人に インフル無料予防接種

静岡済生会総合病院

12月13日、なでしこプランの一環でNPO法人POPULOハウスを訪問、インフルエンザ無料予防接種を行いました。同施設はJR富士駅前であり、路上生活を余儀なくされた人や生活困窮者などが一時的に泊まれる住居を提供する一時生活支援事業を実施。当院は以前より、「保険証がない」「支払うお金がない」などの理由で受診できない入所者に無低事業



の利用を通じて、同法人と関係を築いてきました。今回は、石山純三院長、看護師、MSWらが施設へ出向き、事前に予防接種を希望した50代・60代の男性5人に予防接種を行いました。施設の相談員からは「入所者は金銭的な問題で、予防接種を受けたことがない人がほとんど。インフルエンザにかかると仕事を休まなければならないので、本当に助かります」とお礼の言葉をいただきました。(地域医療センター 岩崎圭介)

司や更生保護関係者など約550人が出席し、炭谷茂理事長による記念講演も行なわれました。当院では2013年から金沢保護観察所と連携。保護観察中の人たちの立ち直りに資することを目的に、病院の中庭や玄関周囲の除草、駐車場のライン補修、院内ロビーや待合いコーナーのソファの拭き清掃などを体験してもらっています。これま



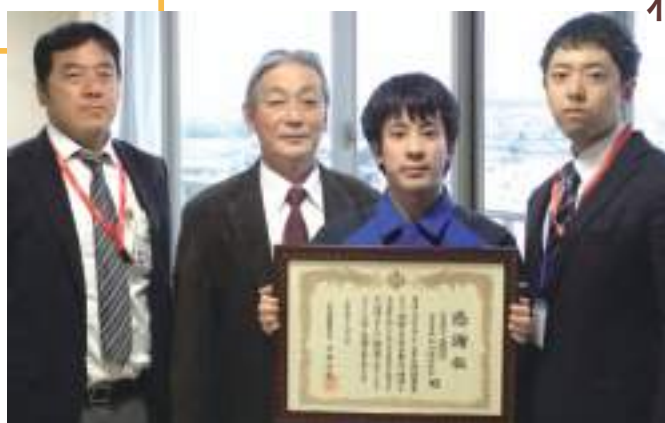
映し出す時間。こんな時間をすべての人が持てたら、私たちはもっと優しくなれるだろう」と

いう思いが込められた作品です。当日は地域住民や当事者家族・支援者など200人が参加し、上映後には活発な意見交換も。参加者からは「今後は自分にできることがあれば、少しでも関わりたい」などの感想が。

荻津守事務副部長は、「障害や自閉症の人が地域の中で生活していくためには、地域社会との結びつきや理解が重要。地域の皆さんと地域力を高め、ソーシャルインクルージョンを進めていく必要性を共感できるよい機会となった」と話しています。(地域連携課 秋山綾香)

保護観察中の人の立ち直り支援 功績が認められ 感謝状を授受

12月3日、金沢市文化ホールにて「更生保護制度施行70周年記念石川県更生保護大会」が行なわれ、合田裕憲・金沢保護観察所長から感謝状を授与されました。当院が取り組んできた社会貢献活動の功績が認められたものです。当日は、保護



〈石川〉金沢病院

子どもと高齢者の交流会で、社会的孤立を防ぐ



〈福島〉川俣病院

12月21日、「第1回『おたのしみ食堂』〜子どもと高齢者の交流会〜」を川俣町保健センターで開催しました。済生会川俣地域ケアセンター・川俣町・川俣町社会福祉協議会が連携。食を通じた子どもと高齢者の交流場所を提供し、「社会的孤立」の予防を目指すイベントです。

当日は61人（高齢者32人・

でに年2〜5回、約90人を受け入れてきました。「作業はきつ

子ども29人）が参加。遠方には送迎支援を行ない、移動手段がなく普段外出できない人の参加促進にも努めました。

「おたのしみ食堂」では、子どもと高齢者が一緒にできる健康体操や昔遊び体験（けん玉・こま回し・あや取りなど）と、昼食会を実施。高齢者が子どもに昔遊びを教える姿や、豚汁やおにぎり、クリスマスメニューを振る舞った食事会でも笑顔で交流する場面が多く見られました。

参加者から「ごちそうがいっぱいいて盆と正月が一緒に来たようだ」「こんなに楽しいのは久しぶり」と、うれしい声が聞かれました。（MSW 櫻井公大）



いけれど、きれいにすることで達成感があり充実できた」「仕

事に対する前向きな気持ちで湧いてきた」などの感想を参加者

高齢者犯罪の背景を探る
セミナーに100人が参加

12月7日、大分県総合社会福祉会館で「権利擁護・地域生活定着支援セミナー」を開催。市民や福祉・司法関係者など約100人が参加し、高齢者犯罪の背景にある生きづらさや生活困窮の理解を深めました。

プログラムは「刑事施設における高齢者に対する改善指導」（長義治・大分刑務所統括矯正処遇官）、「刑余者と向き合つて」（サ高住「緑の園マザー」宇都宮浩二施設長）、特別講演「高齢者万引きの背景」（万引き対策専門家・フリーライター・伊東ゆう氏）の三つ。

特別講演で伊東氏は「高齢者の万引きは全体の4割、再犯率は約50%で、その3割以上が認知症高齢者。お金や住所がないため働けず、万引きを繰り返す人も多い。そうした人たちの居場所の整備が急務で、孤立させないための地域での声かけ・見守り・仕組み作りが重要」と訴

大分県地域生活定着支援センター

から数多くもらっています。

（済生記者 大黒直人）



えました。

伊東氏が実際に関わったエピソードも語られ、高齢者の万引きの背景には、生活環境や社会問題が隠れていることを深く感じ取ることができました。

（相談員 深川恵美）

はでしこナースの ストーリー

#103

患者さんの思いを支える

子宮肉腫を患い、3回目の化学療法を受けるために入院した50代・Aさん、涙ぐみ不安な表情をしていた。自宅の近所には実弟も住んでいて友人も多い。しかし、「一人で自宅にいるといろいろ考えてしまう。治療してもあまり効果がないようにだし、このまま継続するべきか決められない」。私はAさんの横に座り、ゆっくり話を聴くと苦しい胸の内を話してくれた。涙ぐみ「私、メンタルが弱いのかな……」。

治療に対するAさんの不安や苦痛を主

治医に伝え、がん化学療法看護認定看護師や緩和ケアチームにもサポートしてもらったところ、Aさんはようやく主治医と話すことができた。これから治療をどうするのか、自分自身で決めることができ、家族や友人の協力も得られた。Aさんが安心して治療を受けられるようにするにはどうしたらよいか、関わるスタッフ全員で考え、本人の強い願いであった

退院も、在宅看護を導入して実現することができた。

患者さんは病気のこと、治療のこと、抱えきれないほどの不安を抱く。その全てを受けとめることはできないが、近くで寄り添い支えられるようにこれからも関わりたい。

(静岡・病院)

写真と筆者は異なります

投稿募集： ご自分のことやまわりで見かけた、「ナースのちょっとしたいい話」を募集しています。笑える話も大歓迎。原則として500字以内。匿名（謝礼送付の関係から応募は実名）で、法人ホームページにも転載されることがあります。広報室ナース係へ（メール：a.kawauchi@saiseikai.or.jp 手書きの場合は郵送またはFAX 03-3454-5576）。

葵わかな

Wakana Aoi



Vol. 117

11歳でドラマデビューし、
19歳で朝ドラヒロインを演じるなど、
女優の道を順調に歩いてきた葵わかなさん。
今、ミュージカルでの才能も発揮し注目を集めています。

「自分にとって新しい挑戦だった」という舞台への想い^{おも}を聞きました。

Text：みやじまなおみ

Photos：吉川信之

Styling：岡本純子 (afelia)

Hair & Make-up：石川奈緒記

大人も子どもも楽しめるミュージカルに出演。 「日本にもブロードウェイの風を吹かせたい」



あおい・わかな 1998年生まれ、神奈川県出身。2009年女優デビュー。以降、TVドラマ、映画、CMと映像作品で幅広く活躍。2017年にはNHK連続テレビ小説「わろてんか」でヒロイン・藤岡てんを好演し、注目を集める。2019年、ミュージカル『ロミオ&ジュリエット』のヒロイン・ジュリエット役で初舞台、初ミュージカルに挑戦した。1月24日公開の映画「キャッツ」の日本語吹き替え版に声で出演

小さい頃から歌が好きだった。

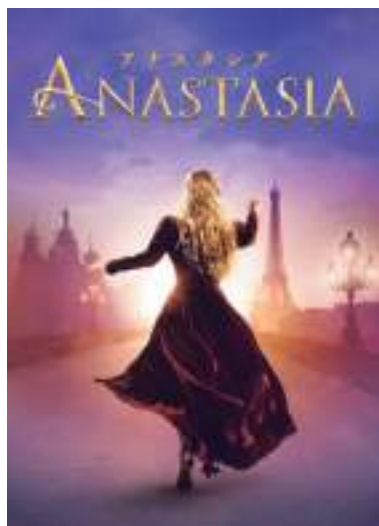
「小学校6年生のときにJポップのボイストレーニングを始めて、ミュージカルのボイトレに切り替えたのがちょうど朝ドラのとき。ミュージカル『ロミオ&ジュリエット』に憧れ、出演も決まっていなかったのに歌の練習を始めたんです」。その後、オーディションでジュリエット役

を射止め、まさに夢を叶えた。

「ようやくお茶の間に知っていただいて、女優としてこれからというとき。舞台に立つべき時期が今なのか、もし失敗したらどうしようとか、実は迷いや不安がたくさんありました。でも、新しいことに踏み出して本当によかった！」と言うように、作品を観た関係者から声を掛けて

いただいて、この3月から上演されるミュージカル『アナスタシア』では主役に。「こうした経験を踏まえて、何事にも勇気を持って挑戦し、常に変化していける人になりたい」と、つぶらな瞳を輝かせる。

「運命的な恋をして、ずっとこの物語の中に生きていられたら……と感じられるのが舞台の魅力。次の『アナスタシア』では日本にもブロードウェイの風を吹かせたい！」と意欲を語る葵さん。長丁場の仕事を支える気分転換は「食べる」こと。「もともと食べるのも、飲むのも大好きなので、時々、何でもOKの日」をつくって、自分を甘やかせています。それがあがるからまたがんばろうって思える。私にとって、大事な明日への活力源です！」



ミュージカル『アナスタシア』

1918年、帝政ロシア時代最後の皇帝・ロマノフ2世をはじめ一族が殺害された中、末娘アナスタシアだけが難を逃れて生き続けたという歴史上の謎「アナスタシア伝説」にもとづく物語。米・アニメ映画『アナスタシア』に着想を得て制作されたブロードウェイミュージカルの日本初演オリジナル版。記憶を失くした主人公アーニャが、自分の過去を取り戻し、愛する家族と自分の心の帰る場所を見つける旅路を描く。大人から子どもまで楽しめる愛と冒険に満ちた作品

■脚本：テレンス・マクナリー ■音楽：ステファン・フラハティ ■作詞：リン・アレンス

■出演：葵わかな・木下晴香／海宝直人（東京公演のみ）・相葉裕樹・内海啓貴／麻実れい ほか

【東京公演】2020年3月1日（日）～28日（土）東急シアターオーブ

【大阪公演】2020年4月6日（月）～18日（土）梅田芸術劇場メインホール



口福につぼん

吉井省一

合ったのは、30年ほど前に取材で佐賀県嬉野温泉を訪れた時でした。嬉野温泉の歴史はたいへん古く、神功皇后が戦の帰りに疲れた兵士たちをお湯に入れたところたちまち傷が癒えて、皇后が「あな、うれしの」とおっしゃったことから名付けられたそうです。

嬉野温泉の泉質は、

ナトリウムを含む弱アルカリ性。ぬめりのあるお湯は、

角質化した肌をなめらかにする美肌の湯としてご婦人たちに大

29 温泉湯豆腐 《佐嘉平川屋》

佐賀県 嬉野温泉



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よしい・せいいち コピーライター・作詞家。老舗百貨店の食の通販誌では約30年にわたって執筆に携わり、全国各地を取材。試食した食品の数は1万点を超える。

昨 年、石原詢子さんの歌唱で日本作詩大賞の最優秀新人賞をいただいた「ひとり酔いたくて」。おかげさまで有線放送のリクエストやカラオケでも人気のようです。厚く御礼申し上げます。

さて、この「酔いたくなる」話ですが、こう寒くなつてまいりますと、熱燗の日本酒が恋しくなるものです。しかも、温泉旅館でひとつ風呂浴びて湯豆腐などをつつきながらとなると、これはもう至福のひとつとき。

今回ご紹介させていただくのは、温泉と湯豆腐のどちらも楽しめる（!?）、お酒好きな方に限らず好きになっていただける「温泉湯豆腐」。湯気の先っぽま

長崎街道の宿場町時代から旅人に供されてきた歴史ある美味



人気。このお湯を使って江戸時代から地元で食されてきたのが「温泉湯豆腐」です。旅館で朝食に出てきたり、温泉街の飲食店でも定番となっている名物料理が全国的になったのは、規制により一般に販売できなかつた嬉野温泉と同質の温泉豆腐用の調理水が開発されてから。今回ご紹介するのは、嬉野温泉にも出店している、創業昭和25年の佐嘉平川屋さんの「温泉湯豆腐」。

一般的に、湯豆腐とは鍋に水と豆腐と昆布を入れてつくるもの。しかし、温泉湯豆腐の場合、



大正ロマン風のごシック建築物「シーボルトの湯」（公衆浴場）は、嬉野温泉のランドマーク

鍋に入れるのは温泉水。コトコトと炊いているうちに豆腐の表面が溶け出して、温泉水も豆乳のように白く濁ってきます。豆腐の形が丸みを帯びるだけでなく、食感も味わいも驚くほどま



鍋のフィナーレには“湯の華雑炊”が待っている

るやかなり、豊かなコクが出てくるのです。

その理由は、嬉野温泉ならではの、ナトリウムを多く含む重曹泉にあります。この弱アルカリ性のつるつるすべすべの美肌のお湯が豆腐の表面をとるところにとろけさせるのです。

野菜や海鮮を入れて 締めは雑炊で決まり！

それでは、さっそくいただいてみましょう。まず、お豆腐で

豆腐のシンプルな味には、海鮮も野菜も合うのでお好みのお鍋に



すがこれは佐賀県産の大豆で作ったもの。さすが全国有数の収穫高を誇る佐賀県。ここはゆずれません。

このお豆腐を適当な大きさに切ります。そして、お鍋に調理水といっしょに入れて強火で熱

していきます。すると、お豆腐がゆっくりと溶け出して、調理水が白く濁ってきます。ここで弱火にします。

ぐつぐつとお鍋全体にお豆腐の旨み^{うまみ}が広がって白濁したスープ状になり、お豆腐の表面が淡

雪のようにトロ〜ッとしてきたら食べ頃。まずは何もつけずに。豆腐の角に頭をぶつけて、という言葉がありますが、もはや角などみじんもなく、豆腐の域を超えたところの柔らかさ。濃い豆乳のようなむせかえる豆の香りが口中を満たしてとても幸せな気分。鍋では脇役に回りがちな豆腐が主役に拔擢された瞬間です。次に、添付のポン酢か胡麻だれで。ポン酢のさっぱり感と胡麻だれのまったり感、どちらも良く合います。

お豆腐の豊かな風味を堪能したら、白濁したスープに、旬の野菜、きのこ、つみれ、海鮮などをに入れて豆乳鍋に仕上げるのがまたお楽しみ。あつさりとしやぶしやぶもよし、魚介とのチゲ鍋風もなかなかです。

締めは、旨みたっぷりのスープにご飯を入れ、塩を少々加えて味を調えれば、佐嘉平川屋さんおすすめの「湯の華雑炊」のできあがり。私は卵を溶き入れて海苔や小ねぎをちらすのが好み。はふはふ言いながら、ご飯にからみつく卵の混ざり具合を楽しむのです。そうそう、胡麻油をひとたらしすればさらに食欲をそそります。

「寒い寒い」と連呼して、春の訪れを待ちわびる今日この頃ですが、寒い時期だからこそ熱くて旨いものをしみじみ味わえる幸せがあることを、この温泉湯豆腐は教えてくれるのです。

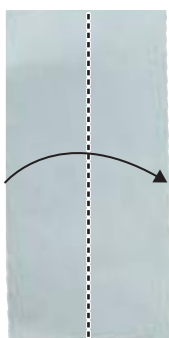
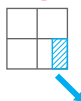
温泉湯豆腐（4〜6名分） [温泉とうふ 400g×4丁、温泉とうふ用調理水 1ℓ×2本、胡麻だれ 150ml×1個、ぽん酢 150ml×1個、生姜 2個、柚子こしょう 2個、すりごま 1個]
3,240円（税込・送料別）
賞味期限……出荷日含め冷蔵9日間



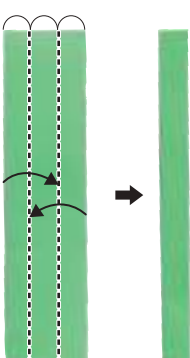
お取り寄せ・お問い合わせは

佐嘉平川屋（平川食品工業）
〒849-2201 佐賀県武雄市北方町大字志久600-1
フリーダイヤル：0120-35-4112
営業時間：9:00～17:00（定休日：日曜、祝日は営業）
ホームページ：<http://www.saga-hirakawaya.jp/>

たんぽぽ・くき

1/8に切った折り紙を
半分に折る

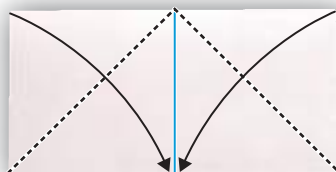
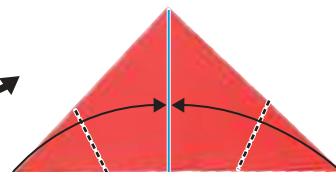
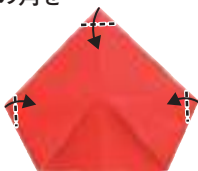
三等分に折る



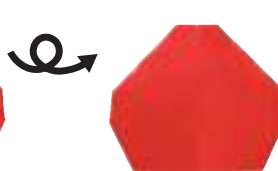
たんぽぽ・完成

花・くき・葉を
のり付けする

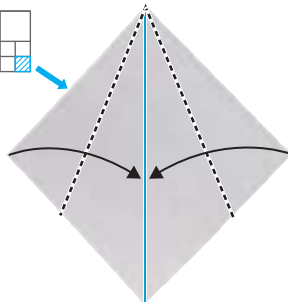
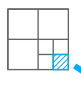
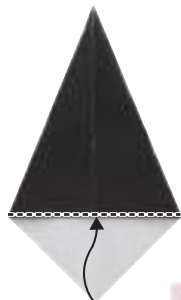
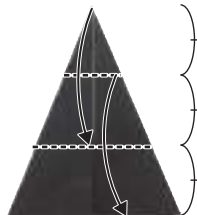
てんとう虫・体

1/8に切った折り紙の
上の角を折る裏返して、左右の角を
中心に向かって折る3つの角を
折る

裏返す



てんとう虫・頭

1/16に切った折り紙の左右の
角を中心線に合わせて折る下の角を中に
折り込む上から順に
三等分に折る

裏返す



てんとう虫・完成

頭を体にはめ込み、
丸シールを貼って顔
と体の模様をつくるたんざくを
貼ってもすてき!

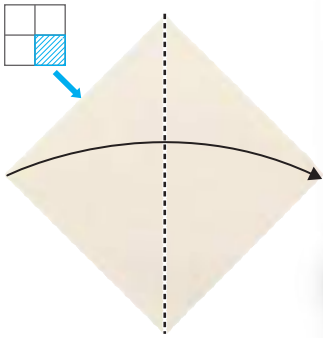
【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に『12か月のおりがみ壁飾り』など33冊。2011年から、小学校2年の教科書「こくご」(三省堂版)にも登場。



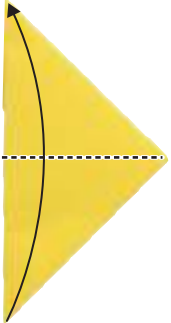
たんぽぽとてんとう虫

たんぽぽ・花

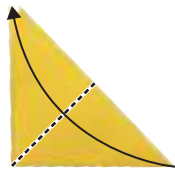
1 1/4に切った折り紙を
半分に折る



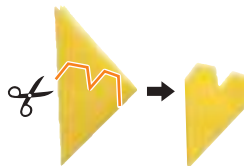
2 下の角を上の方角に
合わせて折る



3 右の角を上の方角に
合わせて折る



4 図のようにはさみで
切り取る



5 ひらく

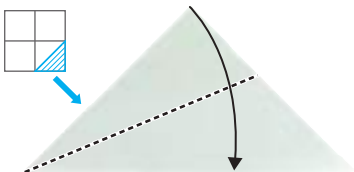


小さいサイズは
1/9に切った
折り紙でつくる

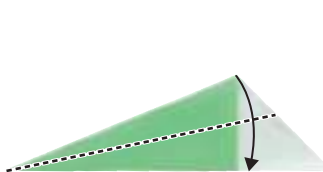
--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

たんぽぽ・葉

1 1/8に切った折り紙の上の
角を下の方に合わせて折る



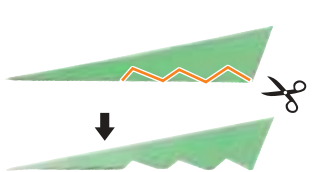
2 さらに上の角を下の方に
合わせて折る



3 はみ出た部分を
はさみで切り取る



4 図のように切り取る



5 ひらく。
これを数枚作る



小さい葉は4で
切る部分を多くする



〈山口〉徳佐八幡宮参道
撮影 豊浦病院 経営企画室 伊吹宇智

topics



介護グランプリ優勝・準優勝

〈岡山〉特養みなみがた荘・
老健たちばな苑

で、特養みなみがた荘が総合優勝、老健たちばな苑も準優勝の快挙に。優勝できた一番の要因は、職員全員の力添えがあった

12月8日に岡山コンベンションセンターで開催された「おかやま介護グランプリ」で、岡山ライフケアセンターの2施設が見事にワンツーフイニッシュを飾りました。

からです。練習を始めたころは、声かけも技術も不安がありましたが、さまざまなアドバイスのおかげで、出場者は少しずつ自信をつけていきました。当日も緊張する中で、応援に来てくれたたくさんさんの職員が本心に心強く、期待に応えようと精いっぱい頑張りました。

まさに「ワンチーム」で目標に向かい取り組んだ成果。授賞式でいただいたトロフィーはとても重く感じました。

〈介護リーダー 門山啓太 もんたけい さん〉

終活フェスに270人

11月30日、かみす防災アリーナで「終活フェス」を開催し、270人が参加しました。

在宅医療・介護連携推進事業として神栖市から委託されたもので、地元・清真学園演劇部の中高生に協力してもらい、「人生会議」をテーマにした劇を上演。一生懸命な演技に「感動したし、家族や大切な人と人生の最後について話す大切さを知った」「これを契機に自分の思いを子どもに伝えていきたい」など多くの声が寄せられました。



終活をテーマにしたトークイベントや落語、認知症VR（仮想現実）体験などを通じ、自分の大切にしていくことは何かを考えてもらいました。

企画立案者の総合診療科・細井崇弘医師は「地域の子どもたちと協力することの楽しさ、その力の大きさに改めて気づかされた有意義な時間でした。今後とも、よりよいまちづくりのための企画を行政などと協力し考えていきたい」と話しました。

（済生記者 谷田 薫）

〈山口〉には苑居宅介護支援事業所

人形劇で認知症を啓発

当事業所のケアマネジャー5人が12月10日、山口市立仁保中学校に出向き、認知症高齢者等にやさしい地域づくりのための「認知症サポーター養成講座」

を行いました。

仁保地区は高齢化率41%の「超々高齢社会」です。今回は認知症を身近に感じてもらうようと、1年生13人に、認知症対応例3部作「ごはんはまだかね?」「うちの嫁は泥棒だ!」「お家に帰ります!」を人形劇に仕立て



て観てもらいました。

子どもに福祉教育を行なうことは地域包括ケアシステムの構築につながるもので、済生会地域包括ケア連携士の役割の一つでもあります。生徒から「認知症の人の心に少しでも溶け込めるようにしたい」との感想が返



つてきて、私たちの思いが伝わったことにほっとしました。

（主任介護支援専門員

須原志保）

京都府病院

全国規模の看護力検定で13人が上位1%と認証

「第3回看護力検定」の成績優秀者表彰式を、12月24日に行ないました。

「看護力検定」（メデイカ出版）は、臨床看護師の看護力（知識・判断力・対応力）を客観的に測るテストです。約1万人が受験し、成績上位1%はダイヤモンド、同25%ゴールド、同60%シルバー、それ以下がブロンズと

認証します。

当院では看護の実力の可視化を狙い、231人が受験。ダイヤモンド13人、ゴールド114人、シルバー50人、ブロンズ54人という結果でした。田中五月看護部長は「初受験だったが、思った以上に試験の



レベルが高かった。自己評価が低いスタッフはこの結果を自信にしてほしい」と話しました。ダイヤモンド認定者には、田中看護部長から認定証と記念品が贈られました。

（企画広報室長 松岡志穂）

topics



四日市公害の生き証人 柏木秀雄医師が講演

〈三重〉 明和病院

1月18日、四日市公害と環境未来館で、当院呼吸器内科の柏木秀雄医師がエキストラで出演した映画「朝霧」が上映されました。この映画は、約半世紀前に大気汚染が深刻だった四日市でロケを行ない、公害に立ち向

かう医師の姿を描いた作品です。

当時、四日市の塩浜病院呼吸器内科に勤め、四日市公害訴訟に証人として出廷した柏木医師が上映後に講演。自分の生い立ちや当時の公害の状況、裁判でのエピソードなどを語りました。最後に「現在の医療は進歩し続けている。その進歩を使いこなせる医師の存在が必要である」と訴えて締めくくりました。

会場には用意した席数をはるかに上回る大勢が集まり、立ち見や会場に入れない人も出るほど大盛況でした。

（済生記者 石田真央）

〈栃木〉 宇都宮乳児院 移動動物園に大興奮

宇都宮動物園の「移動動物園」が12月5日にやって来て、15人の子どもたちが、ウサギ・モルモット・デグー（ネズミの仲間）・イヌとふれあいました。

移動動物園の来訪は3度目で10年ぶり。囲いの中でモルモットを追いかける子や、餌を握った途端、ウサギに取り囲まれ立ちすくんでしまう子も。普段は見られない動物たちに「触った！」と喜ぶ子どもの姿に、私



たちもうれしくなりました。

触れ合いの時間の後は、わんわんショーが開幕。4匹が樽転がしや輪くぐり、平均台渡りなどの華麗な芸を披露し、子どもたちは声援と拍手を送りました。外に出られない子もいましたが、部屋から窓越しに見つめて大興奮。

こんな楽しい日をくださった宇都宮動物園の皆さんに心より感謝します。

（済生記者 大久保彰子）

〈大阪〉 吹田病院 当院の「迷役者」3人が 市民健康講座で熱演

参加型市民健康講座「年をとっても、病気になっても自宅で

暮らすために「介護サービスを使うということ」を12月14日、当院東館センターホールで開催しました。

20人の受講者を前に、地域医療支援部の職員が、訪問看護やヘルパーを利用した在宅生活について、寸劇やクイズを交えて説明。地域連携課の秋山和博さん（患者さん役）・西田史朗さん



ん（友人役）と、呼吸器外科・西村元宏科長（謎の友人役）の3人は、当院の名（迷）役者。

参加した入院患者さんからは「以前、西村先生に診てもらっていたが、こんなに面白い先生だと思わなかった。いい気分転換になった」との感想も。

このほか、吹田医療福祉セン



ターの特養・松風園と高寿園、吹田訪問看護ステーション、東淀川訪問看護ステーションがパネル展示を行いました。

(福祉医療支援課・MSW

中尾俊介)

明和病院

イオンモールで出張講座 「認知症予防の食事」

1月7日、イオンモール明和

のモールウオーキング(買い物ついでにモール内を歩く運動)で、出張講座を行ないました。2020年初のこの日のイベントでは、当院の管理栄養士・藤原由貴さんが「認知症予防の食事」のミニ講座を行ない、50人ほどが集まりました。

前回の「認



知症予防と運動の関係」に引き続き、認知症をテーマに、栄養の観点からバランスのよい食事や積極的に摂取した方がよい食材などについてお話ししました。認知症への関心は高く、来場者は熱心に聞いており、「もっとお話を聞きたかった」と、うれしい言葉もいただきました。今後ともみなさんに役立つ講座内容を考えていきます。

(済生記者 石田真央)



〈山形〉はやぶさ保育園 かるたで楽しく 交通ルールを覚えよう

4歳児21人と5歳児20人が1月14日、もしかクラブの会に参加しました。

もしかクラブは、市内の子どもが交通ルールを守って安全な生活ができるようにと、地域のお母さんたちが結成。当園にも交通安全専門指導員が毎月訪問し、紙芝居や体操などを通して交通安全について教える活動を行なっています。

年明け最初の会なので、新年のあいさつをした後、かるた大会をしました。交通ルールに関する大判かるたで、子どもたち



は一枚でも多く札を取ろうと、指導員が読み上げる声に耳を澄ませて待ち構えます。札を取ると、絵を見ながら友だち同士で信号の色や道路の歩き方などを確認し合っていました。

（済生記者 安達咲子）

〈山形〉特養ながまち荘 地域包括支援センターに 山形警察署から感謝状

12月27日、済生会なでしこ地域包括支援センターに山形警察署から感謝状が贈られました。

「警察業務の重要性を深く理解し、高齢者及び家族に対する総合的な支援と機関誌を通じた犯罪被害防止などの広報活動を行ない、警察に対し協力した」として、担当圏域の交番・駐在所から推薦されたものです。

当地は二世帯・三世帯の同居率が高いものの、最近が高齢者の単身・夫婦世帯も増えており、車なしでは買い物や通院などがしにくい地域もあります。そうした生活上の困りごとの解決には、高齢者のさまざまな相談が寄せられる地域包括支援センターと、地域の交番・駐在所との密接な連携が欠かせません。



これからも高齢者が住み慣れた地域で安心・安全に暮らせるよう、さらに相談しやすいセンターにしていきたいです。

（主任保健師 野口美也子）

〈愛媛〉松山病院 フラメンコギターで クリスマス

患者サービス委員会主催の「第26回なでしこフェスティバル」を、12月21日に1階待合ロビーで開催。入院患者さん、外

topics

来患者さん、職員ら約80人がフ
ラメンコギターなどを堪能しま
した。

フェスティバルは2部構成で、



第1部は松山を拠点に活動する
フラメンコギタリスト・廣川叔
哉さんのオンステージです。フ
ラメンコギターの歯切れのよい
音色でクリスマスソングが奏で
られ、しばし忙しい日常を忘れ
て心から癒やされました。

第2部は当院の軽音楽部が登
場し、「赤鼻のトナカイ」や「情
熱大陸」のテーマなど、なじみ
のある曲を演奏しました。

いつもは診察の順番を待った
めの待合ロビーが、このときは

かりはコンサート会場になった
ようでした。

（患者サービス委員会

渡辺寿子）

〈三重〉 松阪総合病院

新春を祝う尺八と歌

地元で活動する尺八奏者の鈴
木照山さんと、ボランティアの
佐藤ますみさんの歌による新春
尺八コンサートを1月8日、緩
和ケア病棟で開催しました。

1曲目は新春にふさわしく
「春の海」。繊細で美しい尺八の
音色が病棟に響き渡ると、集ま
った15人の患者さんとご家族は、
一様に静かに目を閉じてじっと



聴き入っていました。

続いて「冬景色」「たき火」「ペ
チカ」「冬の星座」と冬を代表
する唱歌が、尺八の演奏に乗せ
た佐藤さんの歌で披露されまし
た。ベッドで参加した患者さん
も、指先で自然とリズムを取っ
たり、口ずさんだりする姿があ
ちこちで見られました。

患者さんに感想を聞くと、柔
らかい表情を浮かべ「子どもの
ころを思い出した」と。新春の
穏やかなひとときを過ごすこと
ができました。

（看護部 越川由美子）

〈大阪〉 中津病院

ゲノム医療と遺体管理の 二つの講演会を同日開催

12月18日、第10回がん診療支
援センター講演会を開催しまし
た。

京都大学大学院医学研究科臨
床腫瘍薬理学・緩和医療学講座
の金井雅史特定准教授が「当院
におけるゲノム医療の取り組み
」と題し、ゲノム医療の基礎
から最新情報までを解説。参加
した職員は真剣な表情で、メモ
をとりながら聞き入っていました。

この日はもう一つ、別の講演
会も。長沙民政職業技術学院の
伊藤茂教授が「遺体管理の知識
と技術」と題し、法医学の観点
からの遺体管理の技術や知識、
トラブル事例などについてレク
チャー。

どちらの講演も、テーマに関
連した職種だけでなく、普段の



関わりが少くない事務職員なども
参加するなど、職員の関心の高
さが伺えました。特にがんゲノ
ムに関しては、大阪府がん診療
拠点病院の職員として関連情報
をしっかりと勉強する必要性を認
識している表れだと感じました。

（済生記者 久原市子）

防犯啓発活動に感謝状

〈三重〉 松阪総合病院

防犯啓発活動に関する当院の功績が認められ、12月12日に松阪警察署長から感謝状をいただきました。

当院ではさまざまな防犯啓発活動を実施しています。オレオレ詐欺啓発ではポスターを掲示し、待合室のエントランスで定



期的に広報ビデオを上映。また車上狙いや侵入犯、自転車盗難に関しても、チラシの配布とのほりを設置しています。

さらに「絆ネット（登録者向けに、警察署から発信される防犯情報）」をエントランスに掲示するなど、継続的な活動に取り組んでいます。

住民の防犯意識は高く、チラシを持ち帰る人、掲示板に目を通す人が多数見られます。今後も防犯啓発活動を通して、犯罪の起こりにくい安心・安全な地域の実現に貢献していきます。

（済生記者 辻 竜也）

〈栃木〉 宇都宮病院

健やかながん処世術を 柏田主任診療科長が伝授

12月21日、緩和ケア市民公開講座を院内・みやのわホールで開催し、地域住民・医療関係者など83人が参加しました。

はじめに柏田晴之緩和ケア科主任診療科長が「がんと共に健やかに生きる」について講演。食事・運動・睡眠といった日常の身体のケアから、笑いが大切とされる心のケアまで専門家の視点から詳述。当院の緩和ケア体制なども紹介しました。

続いて、訪問トレーナーでマッスルコントロール代表の齋藤美香さんが「活き活きストレッチ」を実演。参加者は首・腹・太ももを気持ちよさそうに伸ばしていました。

アンケートでは「緩和ケアについて認識を新たにした」「ス



トレッチは気持ちよかったし、大変勉強になりました」などのうれしい声が寄せられました。

（済生記者 宮崎 彩）

宇都宮病院

年間8割超の上水を代替 地下水活用設備が完成

地下水を上水と遜色ない水質に浄化し、飲用水として活用する設備が完成し、12月25日、給水開始のセレモニーを挙行しました。小林健二院長が電源を入れたシステムを稼働させ、出席者一同が浄化された水で乾杯・

試飲しました。

この設備は、深さ16mの井戸2本を掘った病院の北東側に設置。今後は年間上水使用量の80%以上をこれで賄う予定で、年間1400万円以上の費用削減効果を見込んでいます。

水源を2分化（公共水道と地下水）できるため、非常時の院



地下水システムの前で地下水を試飲する小林院長

内給水機能の維持や、近隣住民への飲用水の提供も可能になります。

小林院長は「地下水の活用によつて患者さん、そして地域の安心・安全にいつそう貢献でき



る」と期待を寄せています。

(済生記者 宮崎 彩)

〈静岡〉なでしこ保育園

伝承遊びで 新年おめでとう!!

新年おめでとうの会を1月10日に開きました。新しい年をみんなでお祝いし、お正月の伝承遊びを知ってもらおうと企画したもので、1〜5歳までの園児約80人が参加しました。

稀代^{きしろ}暁子副園長から今年の干支・ねずみの話を聞いた後、大きなお年玉をもらいました。中身はけん玉や福笑い、たこ揚げなど。それら昔ながらの遊びを保育士が早速実演。特に、こまを投げて羽子板や手の平の上で回したりひもで移動させたりする様子に、園児たちは興味津々です。「先生頑張つて」と声援をかけたり飛び跳ねたりして大盛り上がりでした。

最後に牛乳パックで作った小さな獅子舞が登場し、今年一年元気に過ごせるよう園児たちの頭をパクパク。大きなお年玉の福笑い・こま・羽子板は、毎日の遊びで活用します。

(済生記者 木村葉子)

静岡済生会総合病院

災害医療訓練・研修会

平成21年から実施している「Disaster ABC 病院災害訓練コース」(医療危機管理支援機構主催)を12月8日に実施。医師・看護師・医療技術職・事務員ら38人が受講し、職員・看護学生24人が模擬患者として参加しました。

災害対応の基礎講習後、3班に分かれ「情報通信」「トリアージ」「治療」を実習。患者役も事前に設定を確認し、どこを痛がりどんな演技をすればいいのか、レクチャーを受けてトリアージブースに運ばれて行きました。最後に、駿河湾沖で巨大地震発生と想定した



通しの全体訓練を行ない終了。参加者は「次々と患者が運ばれ、思った以上に動けない自分分がいた」「情報整理が大変で、全員の理解がないと大災害への対応は難しいことがよくわかった」と、訓練の重要性を再認識していました。

(済生記者 木村葉子)



奈良病院

主語は「患者さん」 医療者のあり方を学ぶ

地域の医療関係者向け公開講座を12月13日、当院大会議室で開催し52人が参加しました。

講師はACP（アドバンス・ケア・プランニング）を研究テーマとする京都大学大学院医学研究科の竹之内沙弥加准教授。「自施設でACPの支援を進めるには」の演題で講演いただきました。

ACPのコアは「患者さんが大切にしていることを大切に

する」。一見、当たり前に見えるが、実臨床では「私たちは、患者さんを大切にすると、パターンリズムや医療者の価値観が優勢なことが多いもの。改めて「患者さん」を主語にして、患者さんが自分の価値・信念に基づき生きるための医療者の在り方を考える機会となりました。

会場からの質問に、竹之内先生が質問者のそばまで行つて聞く姿がとても印象的でした。

（緩和ケアチーム・患者支援コーナー）がん看護専門看護師・

緩和ケア認定看護師・

副看護部長 杉下 薫

奈良病院

看護研究で向上を図る

1月18日、院内看護研究発表会を大会議室で開催し、看護師・医師・放射線技師・事務職員40人ほどが参加しました。

看護研究の目的は、看護に関する知識・技術の向上、研究活動を通して実践水準を高めるとともに、個々の看護師の資質向上を図ること。元・奈良県立医科大学看護学科精神看護学准教授の上平悦子先生に指導いただいています。



今回は「手術室のイメージを形成している要因」「地域包括ケア病棟における看護師の退院支援に関する実態調査」など6題を発表しました。

発表後は、研究で導き出され

た課題、結果の解釈の仕方などについて、質問や意見交換が。上平先生からは学会発表に向け、さらにブラッシュアップすべき点が明示されました。

（看護研究委員長 杉下 薫）

〈三重〉特養明和苑 デイサービスが15歳に

12月1日は明和苑デイサービスの誕生日。15歳になり、人間だったら高校受験の年です。

今年も一年間の感謝の気持ちを込めて、12月9日～13日に歌と踊りの感謝祭を開催し、期間中は毎日、NHKの2020年応援ソング「パプリカ」を職員全員で披露。最終日には利用者さんも参加しました。

ここに至りて経営状態も合格点に向かって進んでいます。課題克服には、利用者さん一人ひとりの健康維持とご家族の支援・協力、そして職員との連携の輪が大切。ワンチームで、利用者さんにとってより良いケアを提供していくことが考えます。新たな年が、幸多い一年になるよう心よりお祈りします。そして、私たち職員に向けられる笑顔やたくさんの言葉を大切に



して頑張っています。

（業務課長 山本公子）

〈山口〉豊浦病院

110番の日に防犯訓練

小串警察署の協力の下、「防犯訓練及び防犯カラーボール講習会」を、110番の日の1月10日に実施し、医事課職員を中心に約20人が参加しました。

会計レジ強盗を想定し、①合言葉で他の職員に知らせる②患者などの安全確保に努める③犯人像を記憶して110番通報する④犯人に防犯カラーボールを投げて印を付け、車種・車番

を記憶する——などを訓練。

しかし、犯人役の警察官の迫力に圧倒されて何もできず、パトカーに気づいた犯人が逃走という結果に終わりました。

同警察署刑事・生活安全課長の品川大和警部は「対応する職員を決め、犯人を落ち着かせ、患者さんの安全と自分の安全に気をつけていただきたい」と講評。参加した職員は「怖くて犯人の特徴を覚える余裕がなかった」と述べていました。

最後は院外で防犯カラーボール投げ講習会を行いました。

（経営企画室長・

安全衛生管理者 日高滋規）





かわいいお客さんの登場で がんサロンは大盛況

〈大分〉日田病院

当院では、がんの患者さんやご家族が自由に参加できるがんサロン「サロンなでしこ」を2カ月に1度開催しています。直近は12月20日で、クリスマスオーナメントを作製しました。

サロンは学びや交流、気持ちの共有の場を目指しています。現在は2部構成で、治療や療養に役立つミニレクチャーと、患者さん同士の談笑の時間を30分ずつ設定。ミニレクチャーが後半の患者さん同士の会話のきっかけになると好評です。ボランティアによる「なでしこカフェ」を同時開催し、おいしいコーヒーも会話を後押しします。

同日は、当院の「託児所なでしこ」の園児たちがミッキー＆ミニニーに変身して登場。かわいいダンスを披露してくれ、会場は大盛り上がり。

参加者は「病気と向き合う時間から、ひととき解放された」「子どものエネルギーはどんな薬より効く」と、終始笑顔のサ

ロンとなりました。

〈がん相談支援センター〉

看護師長 荏隈佳寿美

〈新潟〉なでしこ青空保育園

「今年の抱負は？」
「オリンピックに出る！」

新年集会を1月7日に開き、0～5歳児95人が2020年の始まりをお祝いしました。新年のあいさつを元気に交わ



した後、子どもたちに今年の抱負を聞いてみました。

3歳児の「サッカー頑張つて、オリンピックに出る！」とのダイナミックな夢に一同驚

topics

愕。「妹のお世話を頑張る！」と心優しい4歳児には感心。「小学校で友だちいっぱい作る！」という希望に満ちた5歳児には、たくさんさんの声援が飛びました。



続いて、子どもたちが楽しみにしていた獅子舞いの登場。太鼓や笛の音色に合わせ、元気に練り歩く獅子舞いに会場は大盛り上がり。職員がパントマイムやミニコンサートなども披露し、笑いの絶えない楽しい時間に。「笑う門には福来る」——今年一年の福をたっぷり呼び込むことができた一日でした。

(済生記者 柳取友恵)

なでしこ青空保育園

バイ菌、バイバイ！ 歌いながら楽しく手洗い

2歳以上の園児75人が11月29日、花王プロフェッショナル・サービス(株)による「手洗い講習」を受けました。



最初に2人の指導員が正しい手の洗い方について、映像を見せながら説明。目には見えないバイ菌がどこに潜んでいるのか、子どもたちは真剣なまなざしで聞いていました。

次に楽しく洗うための手洗いの歌を教わると、早速5歳児が歌いながら実践。手の甲や指先など隅々まで洗ったところで、ブラックライトを当ててバイ菌をチェックしました。すると、きれいに洗ったはずの手に青く光るバイ菌が見えて、子どもたちはビックリ。再び洗い方のポイントを教えてもらい、念入りに洗い直しました。

この講習以降、子どもたちは覚えてたての手洗いの歌を歌い、食事前に楽しくしっかりと手を洗うようになりました。

(保育士 大桃晴菜)

静岡市校の園城北館

恒例の餅つきで年納め

今年も城北地区社協の皆さんの協力を得て12月13日に餅つきを行ない、地域住民18人と利用者さん11人が参加しました。

もち米を蒸す係、餅をつく係、餅を丸めてあんこ・きなこをつ

ける係の3チームに分かれて作業。朝から準備で人の出入りがあり、利用者さんはそれぞれわけていましたが、餅つきが始まると職員と一緒に杵を持ち「よいしょーっ、よいしょーっ」と大きなかけ声を上げ、リラックス



した様子で楽しんでいました。終了後、手伝ってくれたみなさんへのお礼に、利用者さんが毎日の活動でこつこつ作った松ぼっくりのクリスマスオブジェをプレゼント。笑顔で受け取ってもらい、年末最後のすてきなイベントになりました。

(済生記者 齊藤里奈)

〈神奈川県〉湘南平塚病院 湘南マラソンに済生会の 仲間が102人

第14回湘南国際マラソンが12月1日、神奈川県平塚市を含む湘南海岸で開催されました。今回参加の済生会施設は、本部・



特養港南の郷（東京）、横浜市東部病院・特養若草ホーム・湘南平塚病院（神奈川県）。職員の家族や知人を含め21歳から80歳まで、男性64人・女性38人の計102人。種目別では10キロが55人、フルマラソンが47人。仲間同士、快晴の空のもと遠方に富士山を望みながら、爽やかな湘南の風となりました。

疾走後は、ゴール地点の大磯プリンスホテルで懇親会を催し、済生会同士の絆を深めました。

走るとは運動の基本。記憶力や学習能力の向上、ストレス解消、抗うつ作用、認知症防止、健康寿命延伸にも有効とされています。済生会の皆さん、生活困窮者支援、医療・福祉・社会貢献、充実した人生を送るためにも心身を鍛えましょう。

第15回大会は令和2年12月6日の予定で、5月にエントリー開始。参加希望者は4月末までに氏名（ふりがな）、生年月日、性別、住所、電話番号、参加種目、Tシャツサイズ、メールアドレスを明記し、湘南平塚病院の武内まで。

noriotakeuchi@rd5.so-net.ne.jp

（名誉院長 武内典夫）

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 病院と福祉施設との 連携促進 「なでしこネットワーク」

病院と福祉施設との連携を推進するため、当院の認定看護師が福祉施設の困りごとの解決をサポートする「なでしこネットワーク」を昨年10月に開設しました。

第1号の取り組みは、福祉施設での看取り。近隣の特養・筑豊園の職員延べ18人が昨年11月



（今年1月にかけて、当院の緩和ケア病棟で研修しました。バイタル測定や状態観察などの見学や看取りの流れ、エンゼルケアなどの説明を受けました。

研修生は「患者さんや家族への声掛けや接し方が手厚く、一人ひとりに丁寧に対応していただき勉強になった」「家族とのコミュニケーションが上手で、スタッフ全員が優しく、チームワークがとれていると感じた」と感想を話していました。

当院には、糖尿病看護や感染管理の認定看護師も在籍。ネットワークがさらに広がり、福祉施設で働く職員の役に立ち、連携を深めていけることを願っています。

（済生記者 春口勇介）

〈山形〉特養愛日荘

獅子舞で無病息災を祈願

お正月気分を味わってもらおうと、令和最初の元日は利用者さん・入居者さんにおせち料理や甘酒などを提供しました。

また、毎年恒例の獅子舞も実施。利用者さん・入居者さんの頭を一人ずつ、無病息災を願って獅子頭で囃（は）んで回ります。中



には自分から獅子舞に頭を差し出し「アハハ！」と笑顔で囃まれる人や、驚いて「あっちに行け！」と怖がる人、頭を噛まれても表情を変えずにお汁粉をすすめる人など反応はさまざま。

職員による不慣れた獅子舞ではありましたが、利用者さん・入居者さん全員の今年一年の健康を祈願します。

（介護職員 佐藤 大）

愛犬バロンが遊びに来た！

特養愛日荘

12月29日の面会で、とっても

うれしいことがありました。ご家族の希望で、入居者の石澤良子さんの愛犬・バロンくんが面会に来てくれたのです。石澤さんは抱っこして、終始笑顔でなでていました。バロンくん



もうれしそうです。

ご家族は「本人はバロンのことを覚えていないかもしれないけれど、犬の方は匂いでわかるみたい。安心するのか、いつもバロンからそばに近寄って行き一緒に座るんです」と話していました。石澤さんの表情から、愛犬との触れ合いが良い刺激になったのが伝わってきます。

最後はご家族で記念撮影し、和気あいあいとした雰囲気。愛犬も大切な家族です。これからも定期的に遊びに来てくれるのを楽しみに待っています！

（介護職員 佐藤春香）



〈富山〉高岡病院 イオンモール高岡で PTがウォーキング指導

1月29日、イオンモール高岡で行なわれた「イオンモールウォーキング」に、3人の職員が参加しました。昨年5月に済生会がイオンモールと締結した「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」に基づく協力です。当院は理学療法士など3人の職員を派遣。筆者が、来館した45人にフレイルやサルコペニア

について講義し、チェックシートを用いて健康状態を確認してもらいました。ウォーキングの正しい姿勢も指導し、館内を一緒に1km程度歩きました。

当院に隣接するイオンモール高岡は、地域の健康とコミュニティの推進を目的に、施設をウォーキングの場として開放しています。これからもイオンモールとともに、地域住民の健康保持・増進に努めます。

（リハビリテーション療法部・理学療法士 長井貴弘）

〈山口〉下関総合病院 理想のリーダーを目指し 看護管理者50人が研修

1月13日、聖隷クリストファー大学看護学部・榎原理恵教授を招き「サバントリーダーシップについて」の研修を実施し、主任以上の看護管理者50人が参加しました。

サバントリーダーシップとは「奉仕や支援を通じ信頼を得て、主体的に協力してもらえ、状況をつくり出す」指導者像です。その実現には傾聴・共感・気づきなど10の特性が必要だと講義で学びました。続くグルー



ブワークでは「自分自身の看護観」「自部署の特性・良いところ、伸ばしたいところ」をデイスカッションしました。

参加者は「管理者としてスタッフと一緒に成長できるよう、学んだことを実践したい」「デイスカッションで自分の課題や看護観を明確にできた」などと話していました。

（済生記者 米村幸子）

80人で大規模災害訓練

下関総合病院

震度6の地震発生を想定した大規模災害シミュレーションを、

1月16日に玄関ロビーで行ない、医師・看護師・事務職員など約80人が参加しました。

震災を風化させないため毎年1月に実施して3回目。実践に即した訓練を目指し、参加者に患者の受傷状況を伝えず、複数患者の同時来院を想定しました。開始とともに、トリアージな



報伝達などが不足する問題点が明確に。医師・看護師・事務間で、協力して対策を立てる必要性を実感しました。

下関は災害が少なく、大規模災害の経験者も少ない地域です。



災害を経験した施設や、被災地支援経験を持つ当院DMATチームなどから情報を得て、より実践に近いシミュレーションを継続し、災害拠点病院の役割が果たせるよう努めます。

(済生記者 米村幸子)

滋賀県病院

感動の似顔絵プレゼント

プロの似顔絵師による似顔絵プレゼントを12月18日、小児科病棟で実施しました。「滋賀…病氣の子どもたちの支援ネット

ワーク」と「藤方企画」の共同主催で、入院中の子どもたちを元気づけるのが目的です。

イベントは行列ができるほどの大盛況。待ち時間も退屈しないように、バルーンアートで楽しませてくれました。

当日退院した子のお母さんは「無事退院できたことと、2日前に迎えた誕生日の記念にもなるこの似顔絵はともうれしい」と笑顔で話していました。新生児との似顔絵を描いてもらったお母さんは感動の涙をこぼし、似顔絵師ももらい泣きしていた姿が印象的でした。

初めての開催でしたが、今後とも来院いただけるのとことで、次回が待ち遠しいです。

(医事課 尾関知佳)

(熊本) みすみ病院

通所リハビリお手製の 見事な門松としめ縄

通所リハビリで作った門松としめ縄の贈呈式が12月27日に行われ、利用者代表から庄野弘幸院長に目録が手渡されました。

当院の通所リハビリテーションセンターコンパスでは、2016年から正面玄関に飾

る門松を、昨年からはしめ縄も、利用者さんとスタッフで手作り。年々技術が向上し、今年のしめ縄には初めて薬で作った三つの「垂れ」ができました。購入した値が張りそうな立派な出来



栄えです。毎年一生懸命に作ってくれる皆さんのおかげで、素晴らしいお正月を迎えられています。

正月飾りは1月18日に地域で行なわれる「どんどや」(熊本ではこう呼ばれています)でスタッフが焚き上げ、無病息災を願います。

(済生記者 船橋麻紀)



フットサルで交流を深める

済生会12病院

12月8日に第15回済生会フットサル大会が、大阪府のJ・GREEN堺で開催されました。年々参加病院が増え、今年は静岡、福井、兵庫、滋賀、守山、泉尾、茨木、吹田、千里、富田、林、野江、中津の12病院が参加しました。

大会は、「男性ビギナー」と「男女混合」の二つのリーグ戦が行なわれ、前者は吹田病院が、後者は野江病院が優勝しました。また、女性限定の試合、大人VS子どもエキシビジョンマッチも行なわれました。

参加者からは、「楽しかった」「また女子だけの試合をしたい」と言った感想が聞かれ、たいへん好評でした。試合後は、お互いの健闘を称え合い交流を深めていました。

済生会フットサル大会は、子どもから大人までどんな方でも参加できて楽しめる大会です。来年も参加者が楽しめ親睦が深められるような大会にしたいと思います。

(千里・関祐介／富田・林・國弘暁)

令和最初の初詣に65人

〈愛媛〉西条特養

1月11日・13日・16日の3回に分けて、デイサービスの利用者さん計65人と、近くの西條神社へ参拝に行きました。例年は



事業所内で初詣行事を行なっていました。令和最初の正月なのでお出かけしたのです。

行きの車中では「まだ初詣に行けていなかったから、ちょう

topics

ご家族も一緒に 恒例の歳末餅つき大会

西条特養

どよかった」「私は家族と行ったから2回目じゃ」などの声が。境内を歩いて本堂に向かうと、神主さんがお祓いをしてくれました。利用者さんは鈴を揺すって鳴らしたり、お賽銭を投げたりと、思い思いに参拝。中にはお札を持参し神社に返す利用者さんもありました。帰りの車中では「今年も1年、元気に過ごせますようにとお願いできてよかった」と言っていました。

（済生記者 村尾友和）

12月12日、歳末餅つき大会を地域交流スペースで午前と午後、に計3回行ない、特養とデイサービスの利用者さん約130人が参加しました。

まず富永明子施設長の開会のあいさつに続き「お正月」を歌い、新元号・令和についてのクイズを実施。やがて、蒸し上がったもち米が運ばれ、いい匂いが漂いました。早速、杵でつく

って出る人も。いざ餅をつき始めると「よいしょー、よいしょー」とみんなでかけ声を上げ、会場は熱気に包まれました。

ご家族も10人ほど参加。餅を



ついて盛り上げてくれた人や、つきあがった餅を母娘で仲良く丸める人たち。「忙しくて、なかなか一緒に餅つきはできなかったのですが、今日は来てよかった」と話していました。

餅はぜんざいにして、みんなでおいしくいただきました。

（介護支援専門員 大藪智子）

開所後初のお正月会に 神様と獅子舞が

〈新潟〉三条病院

昨年5月に開所した当院附属の療育サポートセンターひまわりは、1月10日にお正月の会を実施。児童6人が参加し、獅子舞で健康や成長を祈願しました。初めにネズミのお面をつけた職員扮するお正月の神様が登場。

「みんなのために獅子舞を呼びました」と言うのと、音楽に合わせて舞いながら出現。興味津々で近づく子、驚いて保育士に抱き付く子と、反応はさまざま。獅子舞が一人ひとりに囁みつくたびに、神様が「元気に過ごせますように」「お話がちゃんと聞けるようになりますように」と声を出してお祈りしました。

最後にみんなで「お正月」を歌って会は終了。子どもたちは「怖かったけど、楽しかった」と話していました。

（済生記者

野水かれん）



楽しい年賀状づくり

〈富山〉なでしこ保育園

新年最初の登園日の1月6日に、お正月遊びの一つとして行なっている「年賀状ごっこ」をみんなで楽しみました。

ハガキサイズの画用紙に絵や



メッセージを丁寧に描き、宛名・郵便番号・自分の名前を書いて園内のポストに投函。集まった年賀状には消印を押し、年長児が郵便屋さんになって配達に行きます。お友だち以外に、お世話になっている用務員さんに「いつもきれいにありがとうございます」

くれてありがとう」と、感謝の年賀状を送る子もいました。

本物の年賀状と同じように、お楽しみ抽選会の参加番号も付けています。その景品をもらうのも、子どもたちの楽しみの一つになっています。

（済生記者 堀田理恵）

なでしこ保育園

年長児が老人ホームを訪問

年長児27人が12月4日に軽費老人ホーム九重荘を訪問し、ピアノ演奏やお遊戯、歌を披露しました。1985年から毎年恒例行事で、子どもたちはおじいちゃん、おばあちゃんに会うのを楽しみにしていました。たくさんの聴衆を前に少し緊張しながらも、演奏とお遊戯は自信を持って披露。「ゆき」や「お正月」などの童謡は、お年寄りの皆さんと一緒に歌って大きな拍手をもらい、とてもうれしいうでした。

最後に一人ひとりに肩たたきをする「気持ちよかった」「ありがとう」と感謝の言葉が。中には涙を流して喜んでくださる人もいました。

お年寄りをいたわる気持ちを



育み、子どもたちの元気を届けるこの交流を、いつまでも続けていきたいと思います。

（済生記者 堀田理恵）

〈山口〉養護老人ホーム福寿園

手作りのミニミニ門松 40個が20分で完売

当園の入居者さんが職員と手作りした「ミニミニ門松」を12月27日、併設の湯田温泉病院で販売しました。

松や竹、南天などの材料を、職員の知人などが所有する山へ切り出しに行くところから始めた労作で、販売前日までの約1カ月間に40個を作りました。

販売会場では3人の入居者さ



んが、お客さん一人ひとりに「ありがとうございます」と、丁寧に門松を手渡していました。「例年しめ縄を飾るけれど、いつもみなさんにはお世話になっているので買いにきました」と話す利用者さんのご家族も。

磯本智恵施設長は「販売前から『予約可能ですか』と問い合わせ



当センター中村洋所長も購入しました

わせもあったほどで、開始20分で完売し大好評でした」と、とてもうれしそうでした。

（済生記者 西川愛子）

〈愛媛〉老健いしづち苑 いしづち苑神社で初詣

1月8日、当苑内に紅白の幕を張り「いしづち苑神社」を作りました。



常光謙輔苑長による新年のあいさつに続き、51人の入居者さんがいざ初詣。職員が作ったおさい錢を手に鳥居をくぐり、神主（豊田晃司事務長）のおほらいを受け新年のお祈りをします。参拝後、職員扮する巫女がお神酒を振る舞いました。常光苑長が差し入れた日本酒で、入居者さんが思わず「うまい！ もう一杯！」と言ってしまふほどおいしかったようです。

締めくくりには職員が獅子舞を披露。今年も幸せに過ごせるように願いながら入居者さんの頭を順に噛んでいく様子に、笑顔があふれていました。

（済生記者 大仲佳奈子）

topics



客室乗務員経験者に 接遇を学ぶ

香川県済生会病院

ANAビジネスソリューションの新開千恵氏を招き、11月21日「医療現場の接遇研修 ANAの気づかい」をサンメッセ香川で開催しました。地域の医療機関・企業にも案内し、院内外の297人が参加しました。

新開氏はまず、専門職がチームで仕事をする、絶対の安全が求められるなど、航空業界と医療業界には共通点があると説明。またどちらも、顧客満足・従業員満足を満たすには一歩踏み込んだ接遇、つまり「相手を大切に思う心」が重要と指摘しました。そして①興味を持って相手を観察し②何を求めているのか想像し③声をかけてみる——この3ステップで、コミュニケーションが円滑な雰囲気の良い職場となり、良い仕事につながると強調しました。「小さいことほど丁寧に、当たり前のことほど真剣に」という

言葉が印象的でした。

（総務課 池田佳代）

〈兵庫〉特養ふじの里

改善活動の成果発表会

ふじの里となでしこ神戸は12月19日、人材育成企業・OJTソリューションズの講師を招き、現場の改善活動の成果発表会を開催しました。

両施設は2017年12月から、同社に講師を依頼し「5S活動」（整理・整頓・清潔・清掃・躰）と「問題解決」の勉強会を開始し、昨年5月に全プログラムが終了。翌6月から各部署の主任・副主任は「問題解決」を、



また副主任を中心に施設全体で「5S活動」の実践を進めてきました。その半年間の活動成果18事例を発表しました。

また、今年度から日々の気づきを「改善提案シート」で提案する制度を設けており、その優秀賞の発表・表彰もしました。

同社の鈴木了トレーナー、稲田信次プランナーからは「職場が汚れていると利用者さんが心配するのできれいに保つこと。安心して利用できる環境が信用につながり、生産性の向上になる」と講評をいただきました。

（済生記者 山下芳樹）

〈大阪〉吹田病院

臓器別がん治療の現状を 市民公開講座で解説

市民公開講座「ご存知ですか？ここまで進歩したがん治療」を12月7日、摂津市立コミュニティプラザで開催。地域住民74人が受講しました。

がん治療の現状を臓器ごとに、「胃がん」（消化器内科・寺崎慶医師）、「泌尿器がん」（泌尿器科・中村晃和科長）、「肺がん」（呼吸器外科・西村元宏科長）、「膀胱がん」（消化器外科・吉川卓



郎部長（がん診療推進室室長）の各専門医が解説。最後に、当院のがん診療のサポート体制、がん診療推進室・池末マミ師長（乳がん看護認定看護師）が紹介しました。

講座終了後の質疑応答では、予定時間を超えるたくさん質問が寄せられ、「がん」に対する関心の高さがうかがえました。（総務課兼情報システム課 岡利悟志）

福笑いで大笑い！

長野保育園

子ども新年会を1月9日に開きました。園児88人と職員18人



が、元気に顔を合わせて新年のあいさつをしました。

「一月一日」をみんなで歌った後、職員が干支の話やお正月遊びを披露。干支の順番はどう決まったのかを動物の絵を使って紹介。すると子どもたちは「ねうし、とら……」と指折りながら繰り返し「干支に入れなかった猫がかわいそう」などと話し合っていました。

お正月遊びの福笑いでは、子どもたちが目隠しをした職員に「右！ あつ、もつと上！」と指示。ゆがんだひょつとこや、おかめが出来上がり、みんなで大笑い。園庭でもたこ揚げや羽根つきを楽しみ、笑顔あふれる一日になりました。

（済生記者 阿藤佳耶）

福岡総合病院

大規模地震を想定 91人が参加、訓練

福岡市近郊で大規模地震が発生したという想定の下、11月30日に、当院で実働災害訓練を実施し職員91人が参加しました。

災害対策本部立上げから院内の患者搬送、救急搬送患者の受け入れ、トリアージなどを行な

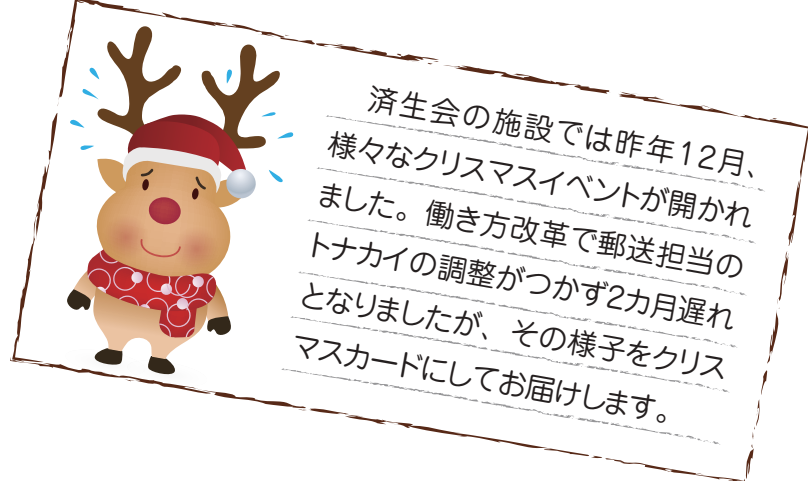
いました。災害対策マニュアルアクションカードを活用して、院内放送やトランシーバーから得られる情報を整理しながら訓練も実施、課題を抽出しました。今回は新たに、記録（院内の動画撮影）、自力で来院した患者の紙カルテ作成、本部のベッドコントロール機能についての



訓練を追加しました。

当院は、災害時における医療救護活動の拠点となる「災害拠点病院」です。今後も継続して訓練を行なうことはとても重要であり、地域医療の中核を担う当院の使命であると感じました。

（済生記者 丸田朋実）



済生会の施設では昨年12月、様々なクリスマスイベントが開かれました。働き方改革で郵送担当のトナカイの調整がつかず2カ月遅れとなりましたが、その様子をクリスマスカードにしてお届けします。



〈石川〉金沢病院

手作りでツリーアート

恒例のクリスマスツリーアートを1日、エントランスホールに設置しました。当院のアートプロジェクトチームSNAP (Saiseikai Nadeshiko Art Project) が手作りしたものです。

ツリーの土台には、エントランスホールの太い円柱を利用。そこに金・銀のシートで覆った筒を貼りつけ、仕上げるLEDの電飾とクリスマス用オーナメントを飾って完成です。SNAPのメンバーは、患者さんやご家族の癒やしと笑顔に

つながるようにと願い、ワクワクしながら制作しました。

院内にはほかに、北欧の伝統的なクリスマス装飾「ヒンメリ」、つるし飾りのモビール、水族館をイメージしたステンドグラスなどのアート作品も展示。(検査部 竹田ひとみ)

〈奈良〉中和病院

小児病棟に笑顔広がる

「早く元気になってね」とプレゼントを渡され笑顔に。病室から出られない子には、サンタとトナカイが個別訪問してプレゼントを渡しました。入院中の子どもたちに笑顔広がるうれしいイベントでした。

(小児科病棟師長 里中聖子)

福島総合病院

コンサートに200人

クリスマスコンサートを14日

育士2人が企画を担当。紙芝居と歌、可愛いイラストを三角帽子の後、中島祥介病院長のサンタクロースと、浅野雅稔初期臨床研修医のトナカイが鈴の音とともに登場。戸惑っていた子も



に院内で開き、地域住民ら約200人が来場しました。無低事業のPRを兼ねて毎年開催し、今回で8回目。

今回は、福島市を中心にクラシックギター教室と演奏会を行なっている福島ギター学院の合奏団4人が来院し、全8曲を演奏。マジックのBGM曲でおなじみの「オリーブの首飾り」では、演奏中に立ち上がり、鉄の輪を使った華麗なマジックを披露。ギターの音色との見事な



マッチングに、会場から笑いと驚きの声があがりました。

ほかにも診療放射線技師が放射線画像クイズを、薬剤師は薬剤師体験と題した練香水作り、看護師によるアロマクラフト教



室など、盛りだくさんの催しで来場者の期待に応えました。

（済生記者 齋藤有里）

〈三重〉明和病院でしこ

医師と事務長、2人サンタ

25日、クリスマス会を開催しました。午前は音楽活動とみんなでツリーの飾りつけ。午後はトナカイ役の職員が引くソリに乗り、前川真二郎事務長と小児科・岡村聡医師のサンタが登場。サンタはなでしこの1年を振り返るDVDを持ってきて、みんなで鑑賞しました。



職員がハンドベルの演奏を披露した後は、2人のサンタがご家族から預かったクリスマスプレゼントを、利用者さん一人ひとりに手渡しました。中には大きな靴下を準備した方もいて、クリスマススムード盛り上げに役買いました。

（済生記者 石田真央）

〈静岡〉川奈臨海学園

クリスマスはプロレスだ！

一日遅れのクリスマスプレゼントとして「第6回里親プロレス」が26日に当園で開催、地域住民と一緒に60人で観戦しました。人材育成の（株）ザメディアジョン・山近義幸代表が企画。プロレスラーのTAKAみちのくさんが昨年旗揚げした「JUST TAP OUT」のレスラー8人が出場しました。

ご当地アイドル・オレンチェが2曲を熱唱し、会場の空気が温まったところで試合開始。試合前は「ちょっと怖いかも」と言う子もいましたが、いざ始まると声援が高まり、それに応えて試合も白熱しました。その後、試合を終えたばかりのリン

グに子どもたちが上がり、大興奮。レスラーの指導で前転や後転などを行いました。「来年も来てほしい」と子ども



が言うと、TAKAみちのくさんは「自分たちも大きく立派になって戻って来るので、みんなも勉強や運動を頑張って大きくなってほしい」と約束していました。

（済生記者 鈴木一太）

福井県済生会病院

中高生22人がコンサート

北陸中学校・高等学校の生徒22人によるボランティアコンサートを19日、正面玄関前ホール

で開催しました。入院患者さんから約40人が集まり、用意した椅子が足りず、立ち見の人でもどるほどでした。

人気曲「パプリカ」の合唱で開幕。サンタの帽子をかぶった生徒ののびやかな歌声が会場に響き渡りました。オーボエと



バイオリンによる「情熱大陸」、津軽三味線の「津軽じょんから節」など、15曲の迫力ある演奏が披露されました。

患者さんからは「生徒さんは一生懸命。元氣が出る」と、喜びの声がたくさん聞かれました。

（済生記者 吉川千恵）



特訓重ね、 病棟・施設を訪問

静岡済生会看護専門学校

19日、併設されている病院・療育センター・特養を今年も全校生徒104人で訪問し、クリスマスソングを披露しました。歌担当の生徒と1・2年生のハンドベル隊は、授業や実習の合間に練習を重ね、手作りのク

リスマスカード600枚を持参。2組に分かれ、キャンドルライトをともしながら、「きよしこの夜」「ジングルベル」を合唱しました。

実行担当の2年生・杉山光さん、一番ヶ瀬志乃さん、田口愛美さんは、「翌日退院の患者さんが、最後に聴けてよかったと言ってくれた」「廊下に椅子を出して聴いてくれた患者さん、体を揺らし一緒に歌ってくれた療育センターの子どもたち。みんなの笑顔がうれしかった」と感慨深げに語ってくれました。

(済生記者 木村葉子)

〈三重〉松阪総合病院

ゴスペルとマッサージで 癒やし

地元のボランティアゴスペルグループの「たましい soul」が18日に来院し、緩和ケア病棟の入院患者さんとご家族約20人を前にコンサートを開きました。

たましい soul は、シンガーの中川順子さんと現役僧侶のギター・岡井けいこうさんの2人組。「サンタが街にやってくる」を熱唱すると、会場の病棟ホールは一気にクリスマスモード。



「アメイジング・グレイス」「君は愛されるために生まれた」と讃美歌が続き、来場者は目を閉じ聴き入っていました。

この日はアロママッサージをボランティアで行なう「薫風」の12人が協力。心地よい音楽に身を委ねる患者さんの指先のアロマトリートメントとマッサージも行ないました。患者さんは「入院中もクリスマスの雰囲気味わえた」と感激していました。

(看護部 越川由美子)

入院の子に メリークリスマス

静岡済生会総合病院

医師の許可が出た入院中の子どもと親御さん4組が24日、小児病棟プレイルームでクリスマス会を開きました。工作を楽しんでいると、クラニクラウン(臨



床道化師)のTOTO(トト)さんがサプライズで登場。子どもたちは一瞬固まりましたが、次々とバルーンアートを作って



もらった途端に笑顔に。

病棟看護師と専門職のHPS（ホスピタル・プレイ・スペシャリスト）によるハンドベルの演奏の後、見覚えのある小児科・村井雄紀医師のサンタが現れ、職員が寄付してくれた文房具や雑貨などのプレゼントを、一人ひとりに手渡しました。

ある男の子は「今日は楽しかった。2回目の入院で長かったけど明日退院できるんだよ」とうれしそうに話してくれました。

（済生記者）

木村葉子

＜新潟＞三条病院 初サンタに泣き出す子も

附属保育園たんぽぽが25日、クリスマス会を行ないま

した。

シャンシャンと鈴の音とともに職員サンタとトナカイが登場すると、子どもたちは大興奮。2・3歳児は、一緒に写真を撮ったり、ハーモニカに合わせて元気よく「あわてんぼうのサンタクロース」を歌ったりしました。0・1歳児の中には、初めて見たサンタに泣き出す子もいましたが、先生に抱っこされて一緒に写真が撮れました。サンタがみんなにプレゼントを手渡すと、すぐに開けてうれしそうに見せてくれる子もいました。

（済生記者） 野水かれん

＜山口＞下関総合病院

ハンドベル演奏と 事務長サンタ

梅光学院中学校・高等学校のハンドベル部15人を招き、20日にクリスマスコンサートを開催しました。会場の玄関ロビーには患者さんや職員ら約100人が集い、その美しい音色に聴き入りました。

「サンタが街にやってくる」「ふるさと」など5曲を演奏し、アンコールに込めて「オー・シャンゼリゼ」も。この日のために一生懸命に練習したそうで、使用した59個のハンドベルの奏法や音色も紹介しました。



また13日には、当院の廣澤和智事務長がサンタになって院内保育園を訪問。突然現れたサンタクロースに、びっくりして泣き出す子もいましたが、一人ずつプレゼントを受け取ると笑顔に変わりました。

（済生記者） 米村幸子



〈茨城〉龍ヶ崎済生会病院 南国風ダンス 定番ソングも

クリスマスコンサートを14日、待合ホールで開催しました。職員や家族がフラダンスやハーモニカ、オカリナ演奏を披露し、患者さんをはじめ約60人が集まりました。

なでしこフラダンスサーズは、華やかな衣装と優雅な踊りで常夏のクリスマスをいざないました。「南国でクリスマスを迎えた気持ちになりました」と、来場者の笑顔がこぼれます。

事務部の関場渉さんは得意の



ハーモニカで「冬景色」「家路」などを演奏、自然と歌を口ずさむ入院患者さんも。最後はオカリナアンサンブル・クローバーが「ホワイトクリスマス」や「赤鼻のトナカイ」など定番ソングを披露。会場は手拍子に包まれました。

（済生記者 丸山健太）

〈静岡〉川奈臨海学園 地域の支えでクリスマス会

13日のクリスマス会には、3歳から18歳までの50人が参加しました。

飾りつけられた会場には職員手作りのごちそう。伊豆今井浜東急ホテルからケーキ、地域で介護事業などを展開するタムラグループからはお菓子をプレゼントしてもらいました。さらに伊豆でフラ教室を行なう「ナレーヒヴァオカラー」の7人がフラダンスを披露してくれるなど、今年も地域の皆さんに支えられ、にぎやかです。

子どもたちの最大の関心はプレゼント。「ぬいぐるみ」「変身ベルトがほしい」「サッカースパイクに決めた」と、期待に胸を膨らませ、竹居昭子施設長の



サンタから一人ひとりに手渡されると、みんな「ありがとう」と本当にうれしそうでした。

（済生記者 鈴木一大）

〈大阪〉中津病院

エスカレーターで 歌い上がる

恒例のクリスマスコンサートを21日に開催し、約50人が来場しました。

文化ボランティア委員長・森山明宏産婦人科部長のあいさつの後、第一部はコーラスクラブ・看護専門学校音楽部・アンサンブルクラブが歌と音楽を披露。循環器内科の柴田浩遵医師は、1階から2階の会場まで歌いながらエスカレーターで上が

る演出で大いに沸かせました。第二部までの幕間には、森山部長がサンタクロースに変身して再登場！看護学生とボランティアさんが一緒に手作りしたプレゼントを配りました。

第二部では芸術・芸能ボランティアの鍵盤ハーモニカチーム「リュスティック」が特別出演。



素晴らしい演奏を披露し、「パプリカ」では看護学生がダンスで、「スタンドバイミー」では柴田医師が歌でコラボレーションしました。

最後は川嶋成乃亮院長が「メリークリスマスアンドハッピーニューイヤー」と締めました。

（済生記者 久原市子）

〈愛媛〉西条特養

パンケーキ、焼きました

デイサービス事業所では20・21・23日の3日間、クリスマスにちなんでパンケーキを作りました。

生地をホットプレートに流し、各自1枚ずつのパンケーキを焼いていきます。片面が焼けると、率先して裏返す利用者さん。職



員が焼くのをただ見ている利用者さん。みんな「いい匂いがしてきたね」と待ちきれない様子。

焼き上がると、イチゴにバナナ、缶詰のミカンとホイップクリームで飾り付けて出来上がり。温かいコーヒーと一緒に「甘くておいしい」と食べました。

3日間で合計69人の利用者さんが参加し、みんなでクリスマスの雰囲気を楽しみました。

（済生記者 村尾友和）

〈大阪〉吹田病院

笑顔に包まれたコンサート

第22回クリスマスコンサートを21日、東館センターホールで開催しました。

当院ではおなじみの「バックウッズ・マウンテニアーズ」の軽快なカントリーミュージックで元氣いっぱいスタート。吹田市立第五中学校吹奏楽部は、30人を超すビッグバンドで楽しくかわいい、そして素晴らしい演奏を披露してくれました。

最後は当院の医師、看護師、薬剤師で結成した「アンサンブルJOY+（プラス）」の優雅な演奏に皆さんが聴き入り、「見上げてごらん夜の星を」を合唱



し、終始笑顔に包まれたコンサートになりました。

午前中には、院内のファミリーマートの店長さんがサンタになって、8B病棟に入院中の子どもたちにプレゼントを届けてくれました。子どもたちは驚きながらも笑顔でプレゼントを受け取っていました。

（済生記者 橋本 茜）

〈福井〉院内保育所

ぽっかぽか園

サンタさん、お寿司、好き？

25日、園児たちのもとにサンタクロースがやって来ました。

鈴の音とともにサプライズで現れたサンタさんに、園児36人



は驚きの声と満面の笑顔。「ジングルベル」や「トナカイ・サンタ・スノーマン」などに合わせて元氣よく踊りを披露しました。さらに「好きな色はなんですか」「お寿司は好きですか」などと質問して、楽しい時間を過ごしました。

踊りのお返しにと、サンタさんは園児一人ひとりにお楽しみのプレゼント。すっかり仲良しになったサンタさんと園児たちは、ハイタッチでまた会おうねと約束しました。園児にとって、心ときめき笑顔あふれる温かいクリスマス会になりました。

（済生記者 吉川千恵）



〈愛媛〉今治病院などでしこ
保育所

本番が上手、園児の発表会

クリスマス発表会を14日に開催し、ご家族54人が見守る中、0～5歳の園児27人が演奏や劇



を披露しました。

絵本「てぶくろ」を題材にした劇や「パブリカ」の曲に乗せた踊りのほか、0歳児はサンタのコスプレで登場。かわいらしい様子に、たくさんのカメラが向けられました。

ご家族からは「温かみを感じる発表会」「子どもの成長した姿も見ることができた」と喜びの声。指導してきた保育士も「練習のときより上手にできた」と達成感を感じていました。

発表後にはサンタさんが登場し、一人ひとりにプレゼント。子どもたちは、恥ずかしがりながらも満面の笑みで受け取っていました。

（済生記者

日野志惟那）

〈茨城〉常陸大宮済生会病院
かわいいゲストも登場！

サービス向上委員会主催のクリスマスコンサートを20日エントランスホールで開き、約50人が楽しみました。



始めに登場したあゆみ保育園園児による歌とお遊戯は、合唱・ハンドベル・劇などなんと7演目。元気いっぱい歌い演じる姿に、会場は心穏やかに。舞踊クラブによる民舞、職員によるハンドベル演奏と続き、サブライズで水戸済生会総合病院から駆け付けた研修医の富永雅規医師がトランペットを披露。力強い

演奏で観客を魅了しました。

参加した職員は「患者さんが足を止めて楽しそうに見てくれたのがうれしかった」と述べました。（済生記者 鈴木達也）

愛知県済生会リハビリ
テーション病院

盛りだくさんのプログラム

恒例のクリスマスを14日、2階大会議室で開催し、入院患



者さんやご家族など大勢が来場しました。

サンタ姿の田内宣生院長のあ



いさつでスタート。高齢者施設などでボランティアの出前落語を行なう光家鶴太^{ひかるやつるた}さんが笑いを届け、ジャグリングごっこ Y&K^{やとけい}さんは、患者さんも参加する大道芸を披露しました。午後は職員が患者さんと一緒に、「よさこい節」や「きよし

のズンドコ節」に合わせた体操。名古屋^{なごや}華マジカルグループの華麗なマジックショーと、名城大学附属高等学校吹奏楽部の演奏で盛り上がりました。

職員のバンド演奏、ブルーインアート、カラオケもあり、会場に収まりきれないほどの患者さんに楽しんでもらえました。

(医療福祉・地域連携室

MSW 伴能風薫)

〈大阪〉障害者支援施設 ふくろうの杜 今年もイオンサンタ

入所の生活支援一課が22日に、通所の二課が18日に恒例のクリスマス会を行いました。

一課では、入所者さん55人が期待に胸を高鳴らせ、職員は日々の活動の合間に会に使う物品の作製や準備を頑張っていました。入所者さんへは、イオン

モール大阪ドームシティ店の店長・職員さんがサンタや着ぐるみでプレゼントを配るボランティアに5年前から毎年来てもらっている、みんな大喜びです。

二課の44人の利用者さんは職員と一緒に「パプリカ」のダンス披露のため練習に明け暮れました。本番前は緊張していましたが、練習の成果が実り大成功町原誠治施設長サンタからプレゼントもありました

(生活支援一課 長嶋眞一郎)

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 演奏やゲームで 大盛り上がり

回復期リハビリ病棟と緩和ケア病棟で20日、クリスマス会を開催しました。

緩和ケア病棟では患者さんとご家族40人が参加。スタッフがハンドベルやリコーダーで「ジングルベル」「聖者の行進」などを演奏しました。ボランティアさんによるピアノ演奏も行なわれ、最後に荒木貢士緩和ケア内科主任部長がサンタになって、患者さん一人ひとりにプレゼントを渡しました。

回復期リハビリテーション病

棟では30人が参加。チーム対抗の玉入れゲームでは、三好賢一整形外科部長のサンタがトナカイの野殿光貴医師の押す台車に



乗って登場。三好サンタの背負うカゴに雪玉に見立てた球をみんなが投げ入れ、会場には笑い声があふれました。「気分転換になった、楽しかった!」と患者さんは話していました。

(済生記者 春口勇介)



「担当介護士選」のプレゼント

〈兵庫〉特養ふじの里

23、24日の2日間、東館の入居者さん60人にサンタがプレゼントを持ってきました。

入居者の皆さんが目キラキラと輝かせ、手を振りながら出迎える中、野津里美所長サンタが介護士トナカイの引くソリに乗って登場。一人ひとりに、担当介護士が考えて選んだプレゼント



ントを渡していきます。中身を見て喜ぶ姿に、各介護士はホッと胸をなでおろします。

「生きててよかった、とても楽しかった」と、笑顔で話す方もいました。おいしいケーキをみんなで食べて、とても幸せなクリスマス会でした。

（介護士 円口貴美子）

長崎病院

患者さんから音楽のプレゼント

クリスマス・コンサートを12月15日、外来ロビーで開催。毎



年恒例ですが、今回は患者さんでバンド活動をしている植松幸政さんの「音楽で恩返しを」という申し出で実現しました。

地域住民、入院患者さん、託児所の子どもたちなど40人超が集まりました。「植松幸政 & [THE BON GOOD]」のメンバーが「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」や「長崎は今日も雨だった」のほか、植松さんが作詞・作曲した「八郎川」も披露。素敵な演奏に合わせて踊り出す人もいて、楽しくにぎやかなムードに包まれました。

（総務課 平川幸子）

香川県済生会病院

チターとマンドリンで演奏会

クリスマスコンサートを19日、当院大ホールで開催し、入院患者さんを中心に約40人が来場しました。演奏者は、地元で活躍するチター（チロル地方の民族楽器）アンサンブルのゾンネ高松と、マンドリンアンサンブルかのん香音。

「ジングルベル」や「赤鼻のトナカイ」「星に願いを」「上を向いて歩こう」など、多くの人に



なじみのある16曲を演奏。患者さんは美しく澄んだ音色を楽しみ、「たき火」や「お正月」などは笑顔で歌っていました。

職員手作りの折り紙サンタを来場者にプレゼントすると、「孫にあげる」とうれしそうに帰っていく人がいて、とても印象に残りました。

（医事課 天満麻里菜）

〈福岡〉大牟田病院

美しい音色に癒やされて

院内クリスマス・コンサートを19日夕、1階ロビーで開催しました。演奏はオーボエ、バイオリン、ピアノによる「トリオ

フォレスト」で、3人は福岡を中心に活躍。クラシックからクリスマスソング、歌謡曲まで



様々なジャンルを十数曲、約30分にわたって披露していただきました。

ロビーには患者さんら多くの人足を運び、美しい音色に心を奪われました。合間のトークには笑いもこぼれ、会場が一体となって手拍子も飛び出すなど、大盛況となりました。

演奏会は、患者さんに夕食前に心安らぐひと時を提供すると

ともに、仕事に追われるスタッフを癒やしてくれるものとなりました。(済生記者 中村 博)

新潟病院

初の調理実習が大好評

地域住民を対象とした初めての調理実習を11月4日、黒埼市民会館にて立仏校区ふれあい協議会と共催し、8歳から70代までの14人が参加しました。

テーマは「減塩」で、管理栄養士によるミニ講座と、調理師による調理のデモンストレーシ



ョンで開始。その後、班ごとに「秋の減塩クリームパスタ」と「ぶどうのヨーグルトムース」を、楽しそうに会話しながら手際よく作りました。

今回の企画は大変好評で、アンケートでは「今後も参加したい」と全員が回答。また、コレステロールや糖質などのテーマを取り上げてほしいとの要望を受けました。

「秋の減塩クリームパスタ」のレシピは、大手レシピサイト・クックパッドの当院のアカウン

（栄養科 朝妻 愛）

〈大阪〉中津病院

1041人の大忘年会

済生会中津医療福祉センター大忘年会を12月27日、ホテル阪急インターナショナルで開き、職員1041人が参加しました。2017年以来、2年ぶりです。

入り口では川嶋成乃亮総長以下幹部職員が「お疲れさま」とねぎらいの言葉でお迎え。開会あいさつ後、鏡開きで酒樽



が勢いよく割られ宴はスタート。間もなくレクリエーションが始まり、アンサンブルクラブの演奏や看護師のDJ、医師と臨床工学技士のボーカルユニットのライブが披露されました。

ビンゴ大会は看護部が司会を務め、デイズニー映画「眠れる森の美女」の悪役マレフィセントに扮した今西裕子看護部長が登場すると大盛り上がり！

最後は志手淳也副院長が「皆さんのおかげで今年も試練を乗り越えられました。2020年がもつとよい年になりますように」とあいさつし、一本締めで閉会しました。

（済生記者 久原市子）

〈大阪〉野江病院

本年度最後の市民講座

認定看護師市民講座「吐物の処理方法」突然の嘔吐に備えよう」を11月12日、当院1階ロビーで開催しました。今回は20人の患者さん、地域住民が参加し、感染管理認定看護師（山下春生主任看護師）による講演・実演を行いました。

ノロウイルス感染症は感染力が非常に強く、家族内でも広まりやすいことから参加者は熱心に聴講。「吐物の処理や実演があり、とてもわかりやすかった」「時節に合った内容でよかった」などの声をもらいました。



なお、本年度企画した全4回の市民講座は、これで無事終了しました。来年度もたくさんの方に参加してもらえよう、新たなテーマを検討中です。

（感染管理認定看護師

山下春生）

野江病院

地域の医師と学術交流

当院主催の第19回大阪市東部地域医療連携学術講演会を11月9日、帝国ホテル大阪で開催し、地域の医師53人・当院職員55人が参加しました。

主な演題は、「高血圧と心房細動」（当院・西川裕二循環器内科医長）、「在宅看取りの実践」（鶴見区医師会・なかたクリニック・中田壮一院長）、「股関節痛・周囲の痛み」その診断と治療」（当院・柴田弘太郎ロバート整形外科部長）。限られた時間でしたが、各演題で活発な質疑応答が行なわれました。

講演後の情報交換会でも、地域の先生方と当院医師が意見交換し、大盛況となりました。

（地域医療連携課係長

竹中信二）



野江病院

脳卒中ケアに自信を！ 若手看護師向けセミナー

医療従事者を対象とした「のえ脳卒中セミナー」を11月2日、当院大会議室で開催しました。

本セミナーは、若手看護師が脳神経疾患を基礎から理解することを目的としています。8回目の今回は「脳卒中の基礎講座——脳卒中ケアに自信が持てる！——」をテーマに、院内外の医療従事者46人が参加しました。

講師を務めたのは、脳卒中セ

ンター・河野勝彦センター長、救急看護認定看護師・佐藤友治副看護師長、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師・篠原つぐみ副看護師長の3人。

実際の症例を交えた実践的な



講義に、参加者は「脳卒中の理解を深める機会になった」「あらためて看護の大切さに気づけた」「学んだことを病棟で伝えていきたい」と話していました。

（済生記者 坂本千晶）

熊本病院

職場対抗大運動会で5位

熊本市や商工会議所が後援す



る「第3回未来へつなぐ職場対抗大運動会」が、11月23日に嘉島町総合運動公園で開催され、当院から21人が参加しました。多くの企業を集めて行なう企業対抗運動会は、職場のコミュニケーションツールの一つとし

て注目されています。当院は2年連続の参加で、結果は51チーム中5位と、惜しくも3位入賞は逃したものの大健闘でした。

ほとんどの職員が初対面でしたが、運動会が終わるころには仲良く打ち解けた様子で、スポーツの素晴らしさを改めて感じました。今回は海外ボランティアの2人も参加し、国際交流もできた貴重な機会でした。

この日得た新たなコミュニケーションや団結力が、少しずつでも働きやすい環境づくりにつながることを願っています。

（職員健康管理室 今吉美沙）

〈茨城〉水戸済生会総合病院 国体で救護支援活動

茨城県で開催された国体のボクシング競技で、当院スタッフは10月3～7日の5日間、救護支援活動に従事しました。

日本ボクシング連盟専属医師、県内の医師や看護師、開催地・城里町職員で合同チームを結成。前日までに、救護所にAEDや創部縫合キット等の物品、ベッド2台を配備しました。

期間中も毎朝の打ち合わせで、会場のレイアウトや役割分担な



どを確認。救急搬送1件、縫合処置5件、医療機関紹介13件など、延べ26人の傷病者に対応しました。ほとんどは選手の外傷対応でしたが、来場者の急病や外傷も数件ありました。

見知らぬ人との組織構築や限られた人的・物的資源での医療処置には困難も伴いましたが、指揮命令系統の構築を意識すれば、比較的円滑に業務を遂行できると改めて感じました。

（救急科部長 福井大治郎）

〈岩手〉北上済生会病院 はしご車も出動 職員100人で防火訓練

地元の北上消防署の協力の下、消防隊員10人と当院スタッフ約



100人による防火訓練を10月31日に実施しました。
出火場所は3階病棟トイレ横の廊下と想定。発見・通報・初期消火・避難誘導・応急救護という一連の流れで訓練しました。本番さながらの緊張感が漂う中、各スタッフは患者誘導などの役割を確認しながら、屋外に設置した自衛消防本部まで避難はしご車による6階からの避難訓練や、消火器・消火栓を使用した訓練も行ないました。

（済生記者 千田章志）

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介します

若年・壮年期のがん患者へのアピアランスケアと終末期ケア

横浜市南部病院 看護相談室

我妻真理子係長／山崎幸子主任

「消化器看護 第24巻第5号」に我妻係長が「若年・壮年期のがん患者へのアピアランスケア」を、山崎主任が「若年・壮年期のがん患者の終末期ケア」について寄稿した。

我妻係長は、アピアランスケアについて、がん治療による脱毛、皮膚や爪の障害など外見の変化に対する具体的なケアの方法を紹介。がん治療中でもその人らしく生活できるように支援することが重要と記している。

終末期ケアでは、山崎主任が終末期ケアにおける課題から、全人的な苦痛の緩和や意思決定支援のポイント、子どもへの支援などを解説。その人その人の苦悩に向き合い、丁寧



に支援を続けていくことが大切と語っている。

(横浜市南部病院

済生記者 青木美帆)

地域医療構想を踏まえたICU・手術室の機能強化

宇都宮病院 院長 小林健二

医療情報誌「月刊新医療」2020年1月号に小林健二院長が寄稿した。テーマは地域医療構想を踏まえたICU・手術室の機能強化。



当院は2014年に病院機能の再点検を実施。ICU・手術室の機能拡充を最優先課題とし、既存建物を有効活用した5カ年計画の増改築工事を実施した。

記事では、①南館の増築に伴う管理部門の移設、外来機能の拡充②ICUを管理部門跡地に移設③

ICU跡地に手術室を拡充するといった3期工事を解説している。

小林院長は「当院の理念である『思いやりのある安全で質の高い医療を提供し地域社会に貢献します』を実現するためには、施設整備（ハード）だけでなく運用体制（ソフト）も充実する必要がある。地域のニーズを把握し、医療制度改革の方向性として、地域中核病院としての役割を果たせるよう努力していきたい」と述べている。

(宇都宮病院 済生記者 宮崎 彩)

意識改革から始まる病院経営の改善

福井県済生会病院 事務部長 齋藤哲哉

「日本病院会雑誌」(第66巻第12号)に齋藤哲哉事務部長が登壇した第2回医療と介護の総合展でのセミナーについて掲載された。

齋藤事務部長は「意識改革から始まる病院経営の改善」と題し講演。高い意識で行動する職員が成長することで職員自身の満足につながる。その職員が医療サービスを提供することで患者さんが満足し、満足度の高い患者さんが増えれば、より多くの患者さんが集まり、財務にもよい影響を与える。職員一人ひとりの意識に働きかけ、実際に行動に移して



もらえるが大切」と訴えた。

また、当院が実施した改革として、①価値観の共有と内発的動機づけ②意識改革の推移③職員自らが考え改善するシステム④方向性と働き方への対応を紹介。最後に「病院に対する愛着心を持った職員をいかに増やしていくかが大事である」と締めくくっている。

(福井県済生会病院

済生記者 吉川千恵)

タスクシフト〜急性期病院における介護福祉士導入から5年を経て

吹田病院 佐藤美幸看護部長

福岡里恵副看護部長

月刊誌「ナースマネジャー」21巻第10号のリレー連載の第5回目「多様な勤務体制づくりとダイバーシティ・マネジメントによる働き方改革」で当院の佐藤美幸看護部長、福岡里恵副看護部長が寄稿。今回は、介護福祉士導入の背景、現状と今後の展望について述べている。



ひめっしー登場！

地域の皆さんに、済生会姫原（特養・ケアハウス・介護支援センター）

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。
職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください。

のこともっと知ってもらうため、シンボルキャラクターを作成。施設職員から集まった作品の中から、「ひめっしー」（写真）が選ばれました。

地域に根ざすため、松山市・姫原地区の「ひめ」の字を体に用いて、色は誠実さを表すブルーラインをあてました。また、緑に囲まれた当地区で今後も愛を込めた支援ができるようピンクのハートを添えました。帽子の「さいせい」の文字は行事ごとに文字を入れ替える予定です。どうです？可愛いでしょう！？

多くの方に覚えていただけるよう

看護師の労働環境の整備が必要とされ、多職種の協働や連携が不可欠であるなか、当院では2014年に介護福祉士を採用。介護職の専門的知識を発揮できるよう、組織構造の基本変数（分業関係・権限関係・部門化等）に基づき体系化、体制構築した。業務の範囲や役割が明確となり、協働することが共通認識となった。急性期病院で介護福祉士が専門性を発揮できる環境を提供できた。

今連載で「くわいナース導入」「夜勤短縮」「勤務表自動作成」「介護福祉士導入」について述べた。その時々



に求められたことに取り組み、多様性を受け入れ対応できる組織になった。更なる改革が求められるなか、患者さんや地域に信頼される組織でありたいと記事は締めくくる。

（吹田病院 済生記者 橋本 茜）

に、広報誌や行事のチラシ、ホームページ、フェイスブック、各職員の名刺など様々な媒体に使っていかうと考えています。

（愛媛・姫原特養／介護支援センター 姫原 田所亮佑）

健康ダンス！〈福岡〉筑豊から全国へ

昨年11月に開催した済生会健康フェアでは、〈福岡〉鞍手町出身のプロダンサーのモンゴルさんがプロ

デュースした「みんなで踊ろうUSA」健康ダンス大会を実施、大いに盛り上がりました。

この盛り上がりを知ったモンゴルさんのダンス仲間から「全国の済生会施設とダンスを通したイベントを企画し、各地を盛り上げたい！」と熱い要望があつたそうです。

筑豊で生まれた済生会発の「健康ダンス」が全国に普及し、健康な「まちづくり」に寄与できたらすばらしいです。ご興味のある方は当院にご

次号予告

済 生

No.1089
[令和2年3月号]

〈特集〉済生会学会・総会（新潟）

2月9日に新潟市で開かれた第72回済生会学会・令和元年度済生会総会の概況を報告します。

済生会の不易流行論（138）

炭谷 茂

この人

市原隼人

済生会交差点

口福にっぽん（30）

銘菓カスドース（長崎県平戸市）

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

三井住友銀行

――表紙見返し[表紙2]

アクサ生命保険(株)

富国生命保険(相)

日本生命保険(相)

第一生命保険(株)

大樹生命保険(株)

明治安田生命保険(相)

――裏表紙[表紙4]

連絡ください！

(福岡・飯塚嘉穂病院

広報担当

松岡亜希)



モンゴルさん (中央)

「サッカー王国・静岡、見参！」

トピックスに掲載の「第15回済生会フットサル大会」に当院チームも参加しました。

優勝を目指してチームは気合い十分、静岡済生会の総力を試合にぶつけてきました。が、最後は何位だったか、よく分からないくらいに中途半端な結果に……。

それでも、初心者から経験者まで必死になって戦いました。もう少し



前列右から2人目「9番」が筆者

移動距離が少なく、会場も風がなく暖かで、こちらのメンバー全員がめちゃめちゃ上手で、さらにハンドで3点だけだしていたら、絶対に優勝できました(笑)。

ちなみに、関西弁に圧倒されて普段の実力の9割5分くらいしか出せなかったのも、全然、悔しくないです……。

来年こそは！優勝めざして、みんなで頑張りでんがなまんがなやでー！

(静岡済生会総合病院

整形外科 野村貴紀)



済生会

明治44年2月
11日、明治天皇
は、時の総理大臣
桂太郎を召さ

れて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、^{恩賜}済生会を創立した。

以来今日まで108年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人^{恩賜}済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 有馬朗人
理事長 炭谷 茂

本部〓東京 支部〓40都道府県
病院 82
診療所 17
介護老人保健施設 30
救護施設 1
児童福祉施設 24
老人福祉施設 124
障害者福祉施設 7
看護師養成施設 8
訪問看護ステーション 58
地域包括支援センター 27
地域生活定着支援センター 5
その他 8
合計 391 (数字は平成30年度
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の62島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万2000人。

済 生

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和2年2月10日発行

通巻第1088号 (第96巻第2号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人^{恩賜}済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

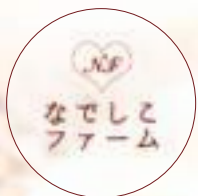
TEL: 03-3454-3311 (代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人^{恩賜}済生会



熊本、松山から「愛」をお届けします！



熊本濟生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428



松山ワークステーション「なでしこ」

愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959



焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ)



♥ギフトボックス (クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)

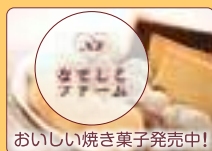


♣くまドレーヌ (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーヌ)



♠元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



済生会グループ保険のご案内

スケールメリットを活かした、
個人保険に比べて
割安な保険料で
大きな死亡保障を!!

グループ保険

〔災害割増特約・こども特約・
こども災害割増特約付福祉団体定期保険〕

(本人・配偶者・こども対象)

診査がなく(告知のみ)
手続きが簡単なうえ、
剰余金があれば
契約者配当金が戻ります。



① 終身医療保障プラン

〔手術給付特約・手術補完給付特約・
先進医療給付特約(12)・死亡保険金不担
保特約(入院保障保険(終身型 09) 用) 付
入院保障保険(終身型 09) (60日型)〕

② 医療保障プラン

〔高度先進医療給付特約・特定疾患給付
特約付医療給付金付個人定期保険〕

③ 総合医療あんしんプラン

〔総合医療保険(団体型)〕

(本人・配偶者・こども対象)

3つの保険より、
選択できます。



第二の人生を
充実させるために
今からご準備を!!

ゆうゆうライフプラン

〔拠出型企業年金保険、
医療給付金付個人定期保険〕

(本人のみ対象)



済生会グループ保険の次回新人募集は、
令和2年3月下旬頃にご案内予定です。



※このご案内は商品の概要を説明しています。ご契約の際には、「パンフレット」「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご覧ください。

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 [事務幹事会社]
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社
第一生命保険株式会社 大樹生命保険株式会社
明治安田生命保険相互会社

〔医療保険引受保険会社〕

アクサ生命保険株式会社 (終身医療保障プラン・医療保障プラン)
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 (総合医療あんしんプラン)

法人サービスセンター
電話 0120-563-925

【受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(祝日・12/31～1/3はお取り扱いしておりません)】

〔グループ保険・ゆうゆうライフプラン・終身医療保障プラン・医療保障プラン取扱店〕

アクサ生命保険株式会社 公法人部
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7470

〔総合医療あんしんプラン担当営業部〕

日本生命保険相互会社 公務第一部
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 電話 03(5533)5086

Form No.0D2313(7.4) AXA-A1-1903-0342/9F7 2019.07.31(2019.11 更新)